B5FL-4481-01 Z0

Fujitsu Notebook LIFEBOOK

LIFEBOOK A5516/B
LIFEBOOK A5516/BW

製品ガイド

（機種別編）

本書をお読みになる前に
1 各部名称
2 取り扱い
3 周辺機器
4 お手入れ
5 仕様

目次

本書をお読みになる前に 5

安全にお使いいただくために 5
本書の表記 5
Windowsの操作 7
BIOSやドライバーのアップデートについて 8
デバイスの暗号化およびBitLockerドライブ暗号化について 8
商標および著作権について 9

第1章　各部名称

1.1 パソコン本体前面 11
1.2 パソコン本体右側面 13
1.3 パソコン本体左側面 14
1.4 パソコン本体背面 15
1.5 パソコン本体下面 16
1.6 キーボード 17
1.7 状態表示LED 19

第2章　取り扱い

2.1 フラットポイント 21
2.1.1 注意事項 21
2.1.2 基本操作 21
2.1.3 フラットポイントの設定を変更する 22
2.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える 23
2.2 マウス 24
2.2.1 注意事項 24
2.2.2 マウスの基本設定を変更する 24
2.3 ディスプレイ 25
2.3.1 注意事項 25
2.3.2 明るさを調整する 25
2.3.3 解像度を変更する 26
2.4 マルチディスプレイ機能 27
2.4.1 マルチディスプレイ機能とは 27
2.4.2 注意事項 27
2.4.3 マルチディスプレイ機能を設定する 28
2.5 画面表示の回転 29
2.5.1 画面表示の向きを変える 29

2.6 サウンド 31
2.6.1 全体の再生音量を調節する 31
2.6.2 アプリごとの再生音量を調節する 31
2.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する 32
2.6.4 既定のオーディオ機器を選択する 33
2.6.5 AIノイズキャンセラー 34
2.7 省電力 41
2.7.1 省電力状態 41
2.7.2 電源を切る 43
2.7.3 本パソコンの節電機能 44
2.7.4 省電力設定 44
2.7.5 省エネ機能 46
2.7.6 バッテリーの電源モード 46
2.7.7 ピークシフト 47
2.8 バッテリー 48
2.8.1 注意事項 48
2.8.2 バッテリーを充電する 50
2.8.3 バッテリーの残量を確認する 51
2.8.4 バッテリーを交換する 52
2.8.5 バッテリーの充電モードを変更する 54
2.8.6 バッテリーの状態を確認する 55
2.8.7 バッテリーの残量補正をする 56
2.9 光学ドライブ 59
2.9.1 注意事項 59
2.9.2 使用できるディスク 59
2.9.3 ディスクをセットする 61
2.9.4 ディスクを取り出す 62
2.9.5 ディスクに書き込む 63
2.9.6 DVD-Videoを再生する 64
2.10 通信 65
2.10.1 有線LAN 65
2.10.2 無線LAN 66
2.10.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー 66
2.10.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する 67
2.11 暗号化機能付フラッシュメモリ 68
2.12 セキュリティチップ（TPM） 69
2.13 電源オフUSB充電機能 70
2.13.1 注意事項 70
2.13.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する 70
2.14 AIカメラエフェクター 71
2.15 Windows Hello 72
2.15.1 Windows Helloを使って顔認識でサインインする 72
2.15.2 Windows Helloを使って指紋認証でサインインする 75
2.16 手のひら静脈センサー 79

第3章　周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に 83
3.1.1 注意事項 83
3.2 メモリ 84
3.2.1 注意事項 84
3.2.2 メモリを取り付ける 85
3.2.3 メモリを取り外す 87
3.3 コネクタの接続／取り外し 88
3.3.1 注意事項 88
3.3.2 ディスプレイコネクタ 88
3.3.3 USBコネクタ 89
3.3.4 オーディオ端子 90
3.3.5 LANコネクタ 90

第4章　お手入れ

4.1 日常のお手入れ 92
4.1.1 パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ 92
4.1.2 手のひら静脈センサー 92
4.1.3 液晶ディスプレイ 93
4.2 定期的なお手入れ 94
4.2.1 注意事項 94
4.2.2 空冷用通風路 94
4.2.3 お手入れナビ／RAS Utility 96

第5章　仕様

5.1 本体仕様 98
5.1.1 LIFEBOOK A5516/B 99
5.1.2 LIFEBOOK A5516/BW 103
5.1.3 六面図 107
5.2 CPU 108
5.3 ディスプレイ 109
5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度 109
5.3.2 クローン表示の解像度 110
5.4 光学ドライブ 111
5.5 無線LAN 112

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。
特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2026年9月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、ご購入元へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタートボタン」を表示して、「すべて」にある「Windows ツール」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべて」の「Windows ツール」の順にクリックします。

POINT

- 本書での操作手順は、「スタート」メニューの「すべて」のビューを「一覧」に切り替えた状態で説明しています。
  表示の切り替えについては、「■ 「スタート」ボタンからアプリを起動する」（→P.7）をご覧ください。

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。
操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。
使用できる周辺機器については、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ LIFEBOOK A5516/BWをお使いの場合

「カタログ/オプション品対応一覧」のページの「オプション品対応一覧」で使用できる周辺機器について確認する場合は、LIFEBOOK A5516/Bに関する記載をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。
なお、本文内において書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

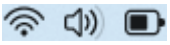
本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Windows 11 Pro	Windows 11	Windows
Bluetooth®	Bluetooth	
CyberLink Power2Go 8	Power2Go	
CyberLink PowerDVD 14	PowerDVD	
Fujitsu Security Solution AuthConductor™ Client Basic	AuthConductor Client Basic	

Windowsの操作

■ クイック設定

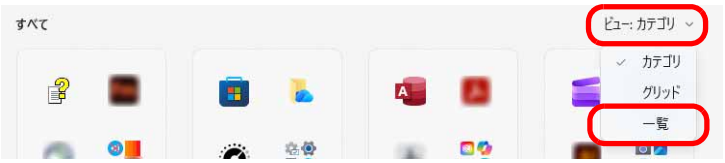
アプリからの通知を表示する他、クリックすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

1 **通知領域にある  をクリックします。**
画面右側に「クイック設定」が表示されます。

■ 「スタート」 ボタンからアプリを起動する

本書のアプリを表示する手順は、「スタート」メニューの「すべて」のビューを「一覧」に切り替えた状態で説明しています。
次の手順で「一覧」に切り替えてください。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「すべて」のビューで「一覧」を選択します。**



■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示してください。

1 **「スタート」ボタン→「すべて」の「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。**

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。
表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。
表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の ^ をクリックします。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本パソコンには、さまざまなアプリや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。
これらのアプリ、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。
アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本パソコンをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。
アップデート方法については、「ドライバダウンロード」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

POINT

- 本パソコンには、インターネットを経由して、ドライバーやアプリの更新プログラムの有無を定期的にチェックして通知する「アップデートナビ」が搭載されています。
  『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」―「サポート関連のアプリ」をご覧になり、アップデートナビを有効にしてお使いください。

デバイスの暗号化およびBitLockerドライブ暗号化について

次の場合は、Windowsに搭載されている「デバイスの暗号化」機能が自動的に有効になり、本パソコン搭載のフラッシュメモリが暗号化されることがあります。

- Microsoftアカウントでパソコンにサインインしている場合
- Microsoft Entra ID（Azure Active Directory）アカウントまたは組織（職場／学校）アカウントでパソコンにサインインしている場合

また、「BitLockerドライブ暗号化」を有効にした場合も、フラッシュメモリが暗号化されます。

暗号化されたフラッシュメモリを修理した場合や修理によりハードウェア情報が更新された場合、パソコン起動時に「回復キー」の入力を求められます。
「回復キー」を入力しないとパソコンを起動できないため、事前に「回復キー」を確認し、なくさないように保管してください。

回復キーの確認手順については、『取扱説明書』をご覧ください。

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Thunderbolt、Thunderbolt ロゴは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。富士通株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

CyberLink、PowerDVD、Power2Goは、CyberLink Corporationの商標または登録商標です。

FeliCaは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標または商標です。
FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright 2026 Fujitsu Limited

1

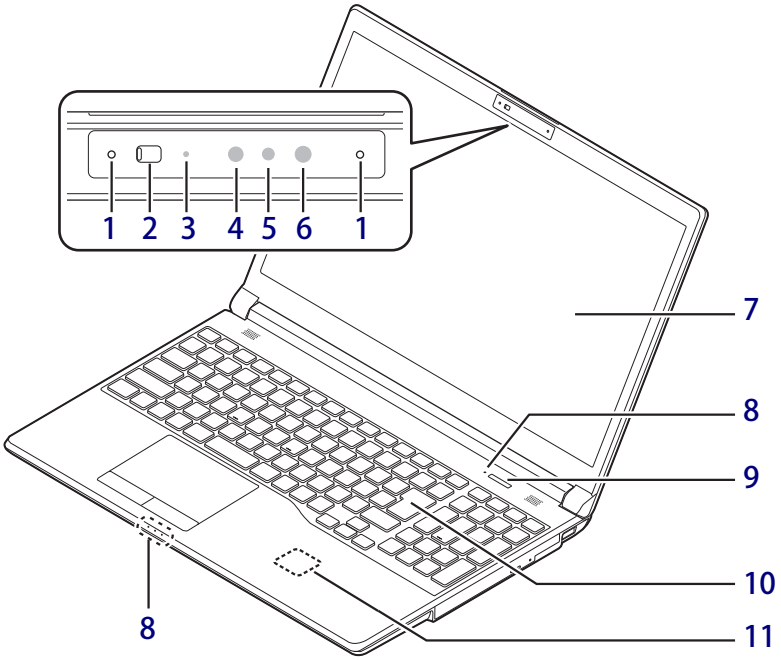
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 パソコン本体前面 11
1.2 パソコン本体右側面 13
1.3 パソコン本体左側面 14
1.4 パソコン本体背面 15
1.5 パソコン本体下面 16
1.6 キーボード 17
1.7 状態表示LED 19

1.1 パソコン本体前面



1 内蔵マイク
音声通話や録音ができます。

2 プライバシーカメラシャッター
カメラを使用しないときは、右に動かしてシャッターを閉めます。
シャッターを閉めると、カメラが使用できないことを示すアイコンがカメラアプリに表示されます。
周囲環境によってはアイコンが表示されない場合があります。

3 Webカメラ状態表示LED
Webカメラが動作しているときに点灯します。

4 Webカメラ
カメラを使うアプリで使用します。

5 顔認証対応Webカメラ
Windowsの起動時などに顔認証によるセキュリティを設定できます。
詳しくは、「2.15 Windows Hello」（→P.72）およびAuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

6 顔認証用赤外線発光部
顔認証利用時に赤外線を発光します。

7 液晶ディスプレイ
（→P.25）

8 状態表示LED
（→P.19）

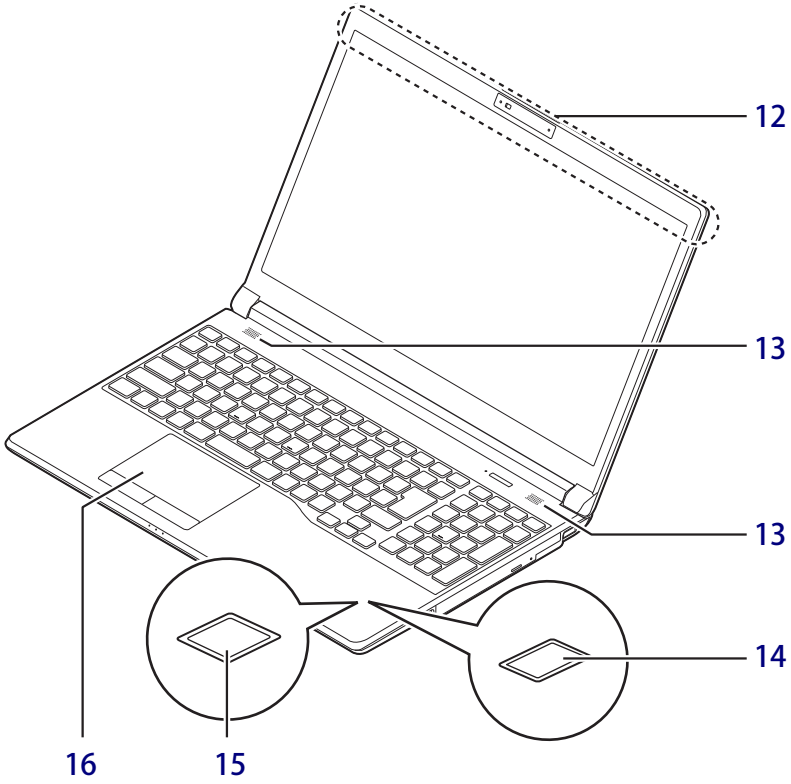
9 電源ボタン
パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.41）にしたりします。

10 キーボード
（→P.17）

11 FeliCaポート
（FeliCaポート搭載機種）
Windowsの起動、アプリのサインイン時に非接触ICカード技術方式FeliCaに対応したICカードによるセキュリティを設定できます。IDやパスワードなどのセキュリティ情報はICカードに格納します。
詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

POINT

- FeliCaを使用する場合は、マークの付近にかざしてください。
- ICカードはパソコン本体から3mm以下にかざし、マークを中心に前後左右10mmの範囲内で動かしてください。



12 ワイヤレスアンテナ

13 スピーカー

（→P.31）

14 指紋センサー

（指紋センサー搭載機種）

パソコンやWindowsの起動時などに指紋認証によるセキュリティを設定できます。

詳しくは、「2.15 Windows Hello」（→P.72）をご覧ください。

重 要

- 指紋センサーはWindows Hello専用となります。AuthConductor Client Basicは利用できません。

15 手のひら静脈センサー

（手のひら静脈センサー搭載機種）

パソコンやWindowsの起動時などに静脈認証によるセキュリティを設定できます。

詳しくは、「2.16 手のひら静脈センサー」（→P.79）およびAuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

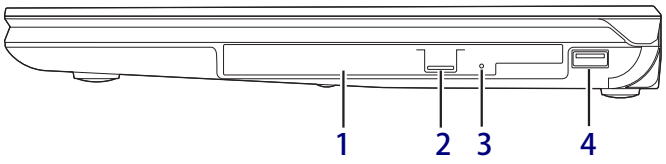
POINT

- 静脈センサーのお手入れ方法については、「4.1.2 手のひら静脈センサー」（→P.92）をご覧ください。

16 フラットポイント

（→P.21）

1.2 パソコン本体右側面



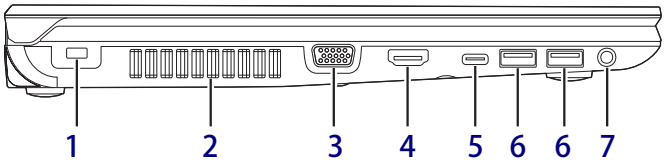
1 光学ドライブ
（光学ドライブ搭載機種）
次のいずれかが搭載されています。（→P.59）
・内蔵DVD-ROMドライブ
・内蔵スーパーマルチドライブ

2 ディスク取り出しボタン
（光学ドライブ搭載機種）

3 強制取り出し穴
（光学ドライブ搭載機種）
光学ドライブのトレーが開かなくなったときに使用します。（→P.62）

4 USB 3.2（Gen1）Type-Aコネクタ
（→P.89）

1.3 パソコン本体左側面



1 盗難防止用ロック取り付け穴

盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。

2 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。
排気孔の周辺20cm以内には、物を置かないでください。

3 アナログディスプレイコネクタ

（→P.88）

4 HDMI HDMI出力端子

（→P.88）

5 USB Type-Cコネクタ

Thunderbolt™ 4が搭載されています。（→P.89）

POINT

- USB Power Deliveryに対応しています。
  仕様については「5.1 本体仕様」（→P.98）をご覧ください。
- 別売のポートリプリケータ（USB Type-C接続）に対応しています。
  ポートリプリケータ（USB Type-C接続）をお使いになる前には、必ず最新のドライバーを適用してください。最新のドライバーは、「ドライバダウンロード」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）よりダウンロードしてください。

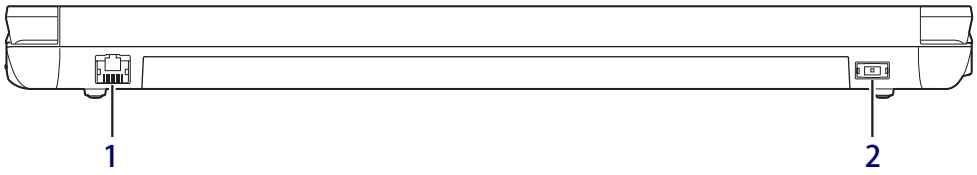
6 USB 3.2（Gen1）Type-Aコネクタ

（→P.89）

7 ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子

（→P.90）

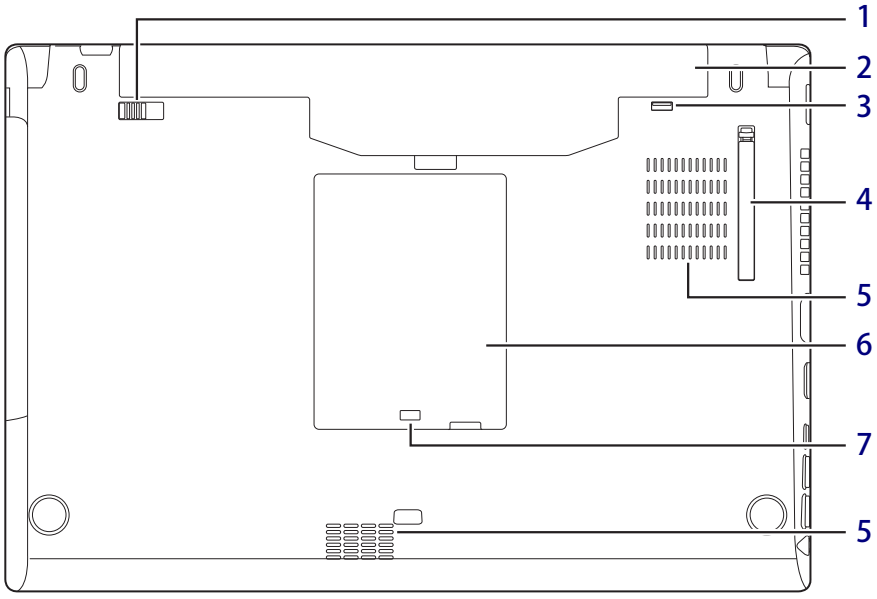
1.4 パソコン本体背面



1 **LANコネクタ**
（→P.90）

2 **DC-INコネクタ**
添付のACアダプタを接続します。

1.5 パソコン本体下面



1 内蔵バッテリパックロック1
内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。（→P.52）

2 内蔵バッテリパック
（→P.48）

3 内蔵バッテリパックロック2
内蔵バッテリパックを取り外すときに使用します。（→P.52）

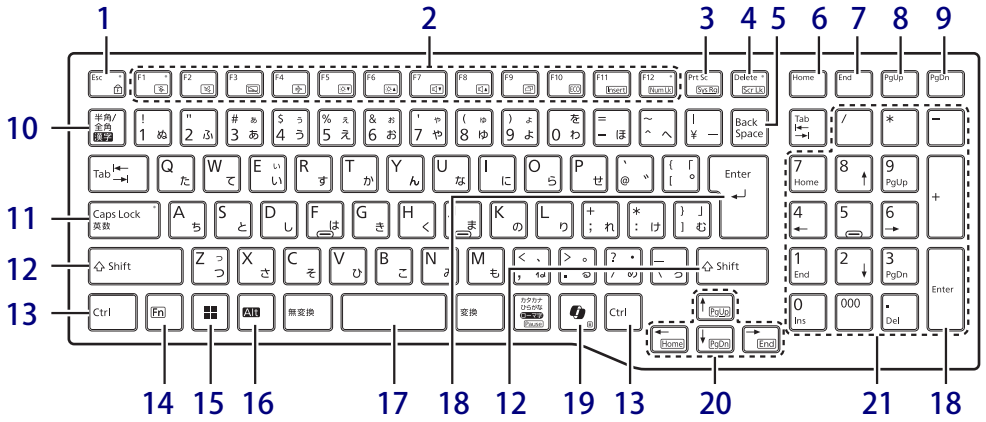
4 ダストカバー
（→P.94）

5 吸気孔
パソコン本体内部に空気を取り込みます。

6 メモリスロットカバー
（→P.84）

7 メモリスロットカバーロック
（→P.84）

1.6 キーボード



1 【Esc/F】キー

・このキーだけを押すと、現在の作業を取り消します。

・F Lock機能（F）

【Fn】キー（→P.18）を押しながらこのキーを押すごとに、F Lock機能の有効／無効を切り替えます。

F Lock機能を有効にすると、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー（→P.17）の機能を使用できます。

重 要

- F Lock機能の有効／無効は、「Function Key Lock Utility」でも切り替えることができます。
- 「Function Key Lock Utility」をお使いになる場合は、ストアからインストールする必要があります。
  「ドライバーズディスク」内にある「Readme.txt」をご覧になり、ストアのURLやインストール時の注意をご確認ください。

POINT

- F Lock機能は、Windowsが起動している場合にのみ使用できます。
  Windows起動前およびBIOSセットアップでは、F Lock機能は使用できません。

2 ファンクションキー／ホットキー

・ファンクションキー（【F1】～【F12】）

アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。

・ホットキー（枠で囲われている刻印）

【Fn】キー（→P.18）を押しながら使用したい機能のキーを押します。

POINT

- F Lock機能（→P.17）が有効の場合は、【Fn】キーを押さずにホットキーだけを押します。

各ホットキーの機能は次のとおりです。

	マイクミュートのオン／オフを切り替える ・オンのときは、マイクミュートランプ（→P.19）が点灯
	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える（→P.31）
	フラットポイントの有効と無効を切り替える（→P.23）
	無線通信の電波の発信／停止を切り替える
▼	液晶ディスプレイを暗くする（→P.25）
▲	液晶ディスプレイを明るくする（→P.25）
▼	音量を小さくする（→P.31）
▲	音量を大きくする（→P.31）
	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替える
ECO	省エネ機能の設定を切り替える（→P.46）
Insert	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
Num Lk	テンキーでの入力のオン／オフを切り替える ・オンのときは、Num Lockランプ（→P.19）が点灯

3 【Prt Sc】キー
画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 【Delete】キー／【Scr Lk】キー

【Delete】キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う ・Scroll Lockランプ（→P.19）が点灯

5 【Back Space】キー

6 【Home】キー

7 【End】キー

8 【Page Up】キー

9 【Page Down】キー

10 【半角／全角】キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

11 【Caps Lock】キー
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。
大文字入力モードのときは、Caps Lockランプ（→P.19）が点灯します。

12 【Shift】キー

13 【Ctrl】キー

14 【Fn】キー
このキーを押しながら、ホットキー（→P.17）を押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

POINT
- F Lock機能（→P.17）が有効の場合、【Fn】キーを押さずにホットキーを押すだけで、ホットキーの機能を使用できます。

15 【⊞】（Windows）キー
「スタート」メニューを表示します。

16 【Alt】キー

17 【Space】キー
文字を入力するときに、空白（スペース）を入力します。

18 【Enter】キー

19 【Copilot】キー／【☰】キー
・【Copilot】（Copilot）キー
AIアシスタント「Copilot」を起動します。

POINT
- 利用できるCopilot キーの機能は、日本においてはCopilotが起動しますが、その他の国・地域により異なります。お客様の環境で利用できる機能を確認したい場合は aka.ms/keysupport をご覧ください。

・【☰】（アプリケーション）キー
【Fn】キーを押しながらこのキーを押すと、アプリケーションキーになります。
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

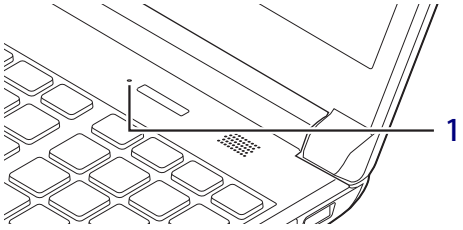
20 カーソルキー
矢印の方向にカーソルを移動します。
また、【Fn】キーを押しながらカーソルキーを押すと、次の機能を使用できます。

【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Ctrl】＋【←/Home】	文章の最初に移動する
【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える
【→/End】	カーソルを行の最後に移動する
【Ctrl】＋【→/End】	文章の最後に移動する

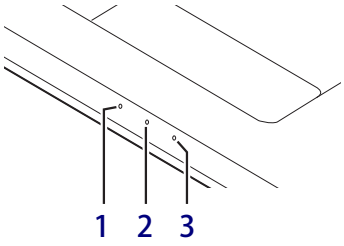
21 テンキー
Num Lockランプ（→P.19）点灯時に数字が入力できます。
Num Lockランプ（→P.19）消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

1.7 状態表示LED

■ 電源ボタン横のランプ



■ パソコン本体前面のランプ



1 **電源ランプ**

本パソコンの状態を表示します。

LEDランプ	本パソコンの状態
点灯	動作状態
点滅	スリープ状態[注]
消灯	電源オフまたは休止状態

注 ：スリープ（→P.41）中は、一部の機能は動作します。
また、動作状況によりLEDランプが点滅ではなく点灯となる場合があります。

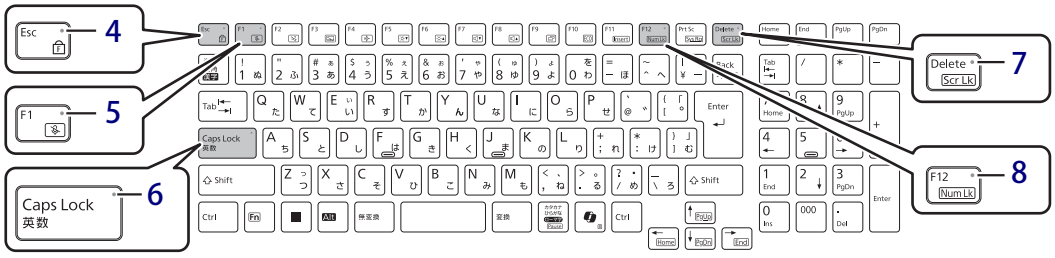
2 **バッテリーステータスランプ**

（→P.50）／（→P.51）

3 **ディスクアクセスランプ**

内蔵フラッシュメモリや光学ドライブにアクセスしているときに点灯します。

■ キーボード上のランプ



4 **F Lockランプ**

F Lock機能（→P.17）が有効のときに点灯します。
ランプ点灯時は、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー（→P.17）の機能を使用できます。

5 **マイクミュートランプ**

外付けマイクを含むすべてのマイクがミュート（消音）のときに点灯します。

POINT

- 【Fn】＋【F1】キーを押すたびに、マイクのオン／オフを切り替えます。

6 **Caps Lockランプ**

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

7 **Scroll Lockランプ**

【Fn】＋【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。
ランプ点灯中の動作は、アプリに依存します。

8 **Num Lockランプ**

テンキーによる数字の入力がオンのときに点灯します。

2

第2章

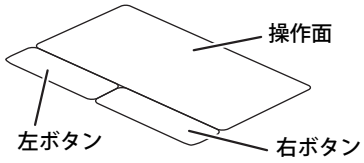
取り扱い

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 フラットポイント 21
2.2 マウス 24
2.3 ディスプレイ 25
2.4 マルチディスプレイ機能 27
2.5 画面表示の回転 29
2.6 サウンド 31
2.7 省電力 41
2.8 バッテリー 48
2.9 光学ドライブ 59
2.10 通信 65
2.11 暗号化機能付フラッシュメモリ 68
2.12 セキュリティチップ （TPM） 69
2.13 電源オフUSB充電機能 70
2.14 AIカメラエフェクター 71
2.15 Windows Hello 72
2.16 手のひら静脈センサー 79

2.1 フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。
ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



2.1.1 注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。
  また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。

2.1.2 基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。
またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をします。
操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT

- 指の先が操作面に接触するように操作してください。
  指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更する場合は、「2.2.2 マウスの基本設定を変更する」（→P.24）をご覧ください。

2.1.3　フラットポイントの設定を変更する

1 「スタート」ボタン→ （設定）の順にクリックします。

2 「Bluetoothとデバイス」をクリックします。

3 「タッチパッド」をクリックします。

4 各項目で、使いたい機能を設定します。
必要に応じて設定を変更してください。

タッチパッド	フラットポイントのオンとオフを切り替えます。
	マウス接続時のフラットポイントのオン／オフを切り替えます。
カーソル速度	カーソルの速度を変更します。
タップ	キーボード操作時にフラットポイントに触れ誤入力が起きるときは、フラットポイントの感度を下げます。
	1本指での操作、2本指での操作を設定します。
スクロールとズーム	2本指でのスクロール、スクロールの方向、ズーム操作を設定します。
3本指ジェスチャ	3本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。
4本指ジェスチャ	4本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。

POINT

- 本機能は、お使いのアプリやアプリの状態によって、動作が異なったり、使用できなかったりします。

2.1.4　フラットポイントの有効／無効を切り替える

次のいずれかの方法で、有効／無効を切り替えます。

重 要

- フラットポイントを無効にする場合は、必ずUSBマウスを接続してください。

■ キーボードで切り替える

【Fn】＋【F3】キーを押すたびに、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。

無効 → 有効

POINT

- 【Fn】＋【F3】キーを押すたびに、画面右下部に状況を示すメッセージが表示されます。
- F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F3】キーを押すだけで切り替わります。

■ 設定で切り替える

1 **「スタート」ボタン→ （設定）の順にクリックします。**

2 **「Bluetoothとデバイス」をクリックします。**

3 **「タッチパッド」をクリックします。**

4 **「タッチパッド」のオン／オフを切り替えます**

・「オン」：フラットポイントを有効にする
・「オフ」：フラットポイントを無効にする

POINT

- マウスとフラットポイントの同時使用
  次の操作で、マウスとフラットポイントを同時に使用する設定を変更できます。
  1. 「スタート」ボタン→ （設定）の順にクリックします。
  2. 「Bluetoothとデバイス」をクリックします。
  3. 「タッチパッド」をクリックします。
  4. 「マウスの接続時にタッチパッドをオフにしない」で設定を変更します。
     ・チェックを付ける：マウスとフラットポイントを同時に使用できます。
     ・チェックを外す：マウス接続時にフラットポイントが無効になります。

2.2 マウス

対 象　マウス使用時

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.2.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光線を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  - ・光沢のあるもの
  - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）の順にクリックします。**

2 **「Bluetoothとデバイス」をクリックします。**

3 **「マウス」をクリックします。**
それぞれの項目で設定を変更します。

2.3 ディスプレイ

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。
複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.4 マルチディスプレイ機能」（→P.27）をご覧ください。

2.3.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.3.2 明るさを調整する

本パソコンの液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。

重 要

- ご購入時およびリカバリ後は、ディスプレイの明るさの設定は最大になっていません。
  暗いと感じる場合などは必要に応じて明るさを調整してください。

■ スライダーで変更する

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「ディスプレイ」をクリックします。**

3 **「明るさ」のスライダーを左右に動かします。**
スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

POINT

- クイック設定（→P.7）でも明るさを調整できます。
  のスライダーを左右に動かすごとに、明るさのレベルが変わります。

■ キーボードで明るさを変更する

【Fn】＋【F6】キーを押す	明るくする
【Fn】＋【F5】キーを押す	暗くする

POINT

- F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F6】／【F5】キーを押すだけで明るさを変更できます。

画面下部に明るさを示すインジケーターが表示されます。

2.3.3 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「ディスプレイ」をクリックします。**

3 **解像度を変更します。**

1.「ディスプレイの解像度」で設定したい解像度を選択します。
2. 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。

4 **リフレッシュレートを変更します。**

1.「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。
2.「ディスプレイを選択して、その設定を表示または変更します」でディスプレイを選択します。
3.「リフレッシュレートの選択」でリフレッシュレートを変更します。

POINT

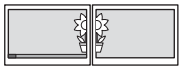
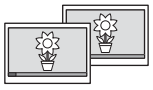
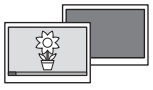
- 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」（→P.109）をご覧ください。
- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4 マルチディスプレイ機能

本パソコンに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。
外部ディスプレイを接続する方法については、「3.3.2 ディスプレイコネクタ」（→P.88）をご覧ください。

2.4.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。 すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。 表示するディスプレイは切り替えることができます。

【■】＋【P】キーおよび【Fn】＋【F9】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

2.4.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 拡張デスクトップ表示では「PowerDVD」の画面を2つのディスプレイの間で移動すると、一時的に再生が止まることがあります。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するアプリは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 最大3画面でマルチディスプレイを設定できます。

2.4.3 マルチディスプレイ機能を設定する

1 「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。

2 「ディスプレイ」をクリックします。

3 画面上部の選択肢から、表示する設定を選択します。

表示画面を複製する	クローン表示になります。
表示画面を拡張する	拡張デスクトップ表示になります。
1のみに表示する	シングル表示になります。パソコン本体のディスプレイのみに表示します。
2のみに表示する	シングル表示になります。外部ディスプレイのみに表示します。

4 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。

5 必要に応じて、表示する画面の位置／明るさ／解像度／向きなどを設定します。

POINT

- 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」（→P.109）をご覧ください。
- リフレッシュレートを変更する場合は、「2.3.3 解像度を変更する」（→P.26）の手順4を行ってください。
- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.5 画面表示の回転

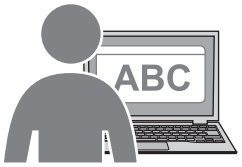
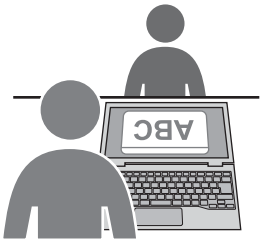
使用する状況により、パソコンの画面の向きを変更できます。

2.5.1 画面表示の向きを変える

画面表示の向きは、次の方法で変更できます。

■「画面反転ユーティリティ」 で変更する

パソコンの画面を開いた状態で対面の人に見せやすいように、画面表示を簡単に変更できます。
次の組合せでキーボードを押して、画面表示の向きを切り替えます。

画面表示の向き	 通常画面 横表示	 反転画面 横（反対向き）表示
キーボードの操作	【Ctrl】＋【Alt】＋【↑】キーを押す	【Ctrl】＋【Alt】＋【↓】キーを押す

重 要

- 外部ディスプレイを接続している場合は、本機能は使用できません。
- 外付けのキーボードからは操作できません。本パソコンのキーボードで操作してください。

□反転画面にする場合

1 **液晶ディスプレイを対面の人が見えるように開きます。**

2 **【Ctrl】＋【Alt】＋【↓】キーを押します。**
「画面反転ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

3 **「実行」をクリックします。**
画面表示の向きが180度反転し、横（反対向き）表示になります。

重 要

- 画面表示の切り替え（キーボード操作）は、液晶ディスプレイを対面の人が見えるように開いた状態で行ってください。
- 反転画面時の画面操作はフラットポイントで行ってください。マウスでの操作は、カーソルが逆方向に動きます。
- 反転画面で電源を切った場合は、次に電源を入れたときも反転画面になります。

POINT

- 「次回以降、キー操作時の確認メッセージを表示せずに実行する」にチェックを付けて「実行」をクリックすると、次の操作から「画面反転ユーティリティ」ウィンドウは表示されずに画面表示の向きが切り替わります。
  キー操作時に「画面反転ユーティリティ」ウィンドウを表示させるには、次の手順を行ってください。
  1. 「スタート」ボタン→（設定）→「Extras」→「画面反転ユーティリティ」の順にクリックします。
  2. アプリの動作の「キー操作時に確認メッセージを表示する」をオンにします。

□通常画面に戻す場合

1 **液晶ディスプレイを戻す前に、【Ctrl】＋【Alt】＋【↑】キーを押します。**
「画面反転ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

2 **「実行」をクリックします。**
画面表示の向きが通常画面に戻り、横表示になります。

重 要

- 画面表示の切り替え（キーボード操作）は、液晶ディスプレイを対面の人が見えるように開いた状態で行ってください。

POINT

- 「次回以降、キー操作時の確認メッセージを表示せずに実行する」にチェックを付けて「実行」をクリックすると、次の操作から「画面反転ユーティリティ」ウィンドウは表示されずに画面表示の向きが切り替わります。
  キー操作時に「画面反転ユーティリティ」ウィンドウを表示させるには、次の手順を行ってください。
  1. 「スタート」ボタン→（設定）→「Extras」→「画面反転ユーティリティ」の順にクリックします。
  2. アプリの動作の「キー操作時に確認メッセージを表示する」をオンにします。

3 **液晶ディスプレイを自分が見えるように起こします。**

■ 手動で向きを変更する

パソコン本体の向きにかかわらず手動で画面表示の向きを変更できます。

1 **「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「ディスプレイ」をクリックします。**

3 **「画面の向き」で変更したい向きを選択します。**

選択メニュー	横	縦	横（反対向き）	縦（反対向き）
画面表示の向き				

「ディスプレイの設定を維持しますか？」と表示されます。

4 **「変更の維持」をクリックします。**

2.6 サウンド

ここでは、音量の調節方法などについて説明しています。
オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.3.4 オーディオ端子」（→P.90）をご覧ください。

2.6.1 全体の再生音量を調節する

パソコン本体のスピーカーや、本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

【Fn】＋【F8】キーを押す	音量を上げる
【Fn】＋【F7】キーを押す	音量を下げる
【Fn】＋【F2】キーを押す	ミュートする／ミュートを解除する

POINT

- F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F8】／【F7】／【F2】キーを押すだけで音量を変更できます。

画面下部に音量を示すインジケーターが表示されます。

POINT

- 通知領域の「スピーカー」アイコン（）をクリックして表示されるスライダーで調節することもできます。

2.6.2 アプリごとの再生音量を調節する

アプリごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

1 **音量を調節するアプリを起動します。**

2 **通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。**

3 **「アプリ」の一覧から、音量の設定を変更したいアプリの音量を調節します。**

2.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。
調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.32）、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.33）をご覧ください。

1 **音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。**
「3.3.4 オーディオ端子」（→P.90）

2 **通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックします。**

3 **「サウンドの設定」をクリックします。**

4 **詳細設定の「サウンドの詳細設定」をクリックします。**
「サウンド」ウィンドウが表示されます。

5 **「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。**

6 **音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**

7 **「レベル」タブをクリックします。**

8 **音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。**

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
内蔵スピーカー	
スピーカー／Speaker on SoundWire Device	パソコン本体のスピーカーから出力される音の再生音量
ヘッドセット	
Headset Earphone on SoundWire Device	オーディオ端子に接続したヘッドセットから出力される音の再生音量
ヘッドホン	
Headphone on SoundWire Device	オーディオ端子に接続したヘッドホンから出力される音の再生音量
［ディスプレイ名］注1注2	
［ディスプレイ名］注1	ディスプレイから出力される音の再生音量

注1 ：「［ディスプレイ名］」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。
注2 ：次のコネクタに、音声出力に対応したディスプレイを接続した場合に表示されます。
- HDMI出力端子
- USB Type-Cコネクタ

POINT

▸ 表示される設定項目名が異なる場合があります。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目		説明
内蔵マイク		
	Microphone Array on SoundWire Device	内蔵マイクから入力される音の録音音量
ヘッドセットマイク		
	Headset Microphone on SoundWire Device	オーディオ端子に接続したヘッドセットのマイクから入力される音の録音音量

POINT

- 表示される設定項目名が異なる場合があります。

2.6.4 既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

1. **通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックします。**
2. **「サウンドの設定」をクリックします。**
3. **詳細設定の「サウンドの詳細設定」をクリックします。**
   「サウンド」ウィンドウが表示されます。
4. **「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。**
5. **既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。**
6. **「OK」をクリックします。**

2.6.5 AIノイズキャンセラー

本機能はオンライン通話アプリ使用時に周囲のノイズを低減します。
オンライン通話などで、環境ノイズ（キーボードの打鍵音、電話の着信音、ペットの鳴き声、生活音など）を識別し、まわりのノイズを自動で低減させることで、会話をしやすくします。
また、AI登録ボイスフォーカスモードを使用すると、登録した声を強調します。

■ 注意事項

- 一部のオンライン通話アプリおよびヘッドセットなどの接続機器によっては、本機能がご利用できない場合があります。
- 一部のオンライン通話アプリでは、本機能の設定切り替え時、オンライン通話アプリが正常に動作しなくなる場合があります。
  正常に動作しなくなった場合は、オンライン通話アプリの通話を再接続、または通話アプリやパソコンを再起動してください。
- 本機能のご利用によりパソコンの動作が遅く感じる場合は、他のアプリを終了させてからオンライン通話アプリをご利用ください。
- 「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオンにして、オンライン通話アプリで通話中に次の操作をすると、再生中の音がカットされることがあります。
  その場合は、「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオフにしてください。
  ・動画や音楽を再生する
  ・アプリ上で動画再生などを共有する
- 「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオンに設定している場合、一部のオンライン通話アプリでは通話中にパソコンのシステム音などがカットされることがあります。また、一部のオンライン通話アプリのオーディオテストで、テスト音が聞こえないことがあります。
  その場合は、「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオフにしてください。
- 「AI登録ボイスフォーカスモード」を利用する場合は、事前に声の登録を行ってください。また、使用するマイクごとに声の登録が必要となります。
  ・登録した声以外の声すべてを低減できるわけではありません。
  ・効果が感じられない場合は再度声の登録を行ってください。
- 「AI登録ボイスフォーカスモード」をUSBヘッドセットで使用する場合、声の登録時と異なるUSBコネクタに接続すると効果が出ない場合があります。その場合は声の登録を行ってください。
- ヘッドセットなどの接続機器をお使いの場合
  ・接続機器は、パソコン本体に接続してお使いください。
  ・接続機器をはじめてお使いになる場合、機器を接続した状態で設定をオンにしてください。
  ・本機能が効かない場合は、設定を一度オフにしてから再度オンにしてください。
- 「AI登録ボイスフォーカスモード」は多くの電力を使用するため、バッテリー運用で使用する場合は駆動時間が短くなります。その場合はACアダプタを接続してください。
- オーディオドライバーを最新バージョンにアップデートしてご利用ください。

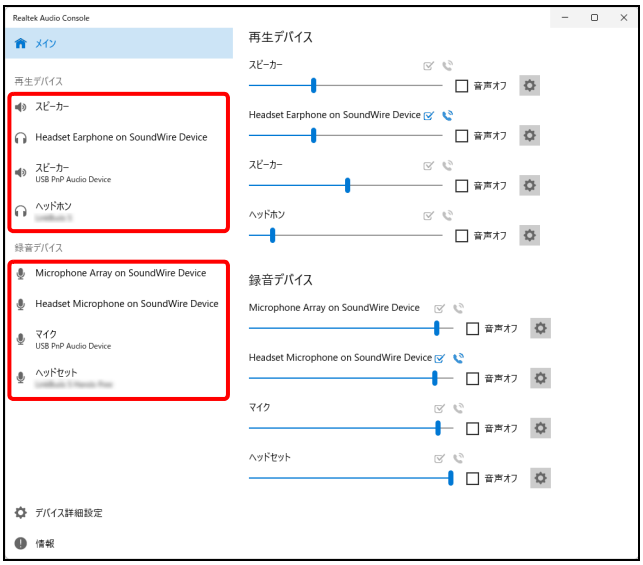
■ AIノイズキャンセラーを使用する

1 「スタート」ボタン→「すべて」の「Realtek Audio Console」の順にクリックします。
「Realtek Audio Console」が表示されます。

2 マイクおよびスピーカーの効果を設定します。

●マイクの効果を設定する場合
通話相手に自分の声を聞きやすくします。
「録音デバイス」から設定する機器をクリックします。（→P.36）

●スピーカーの効果を設定する場合
通話相手のノイズを低減し、自身が聞きやすくします。
「再生デバイス」から設定する機器をクリックします。（→P.39）



上の画面は表示例です。
「再生デバイス」および「録音デバイス」の機器は、接続されている機器のみ表示されます。

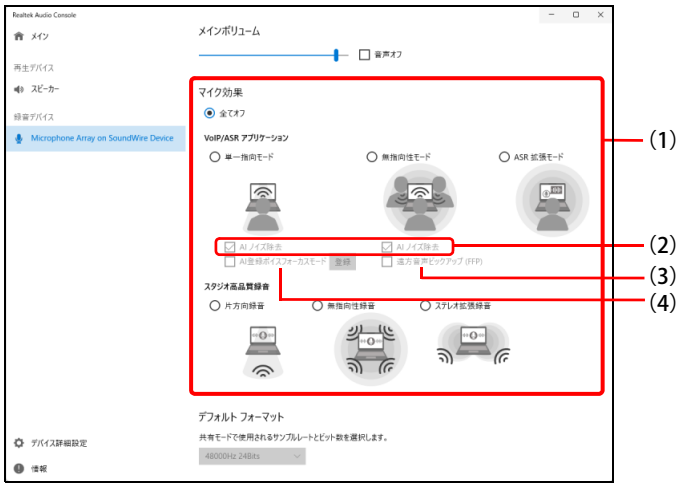
POINT

- 表示される設定項目名が異なる場合があります。
- 音量スライダー横の⚙をクリックしても、設定画面が表示されます。
- スピーカー内蔵ディスプレイを接続している場合、ディスプレイのスピーカーは表示されません。

■ マイクの効果を設定する

通話相手に自分の声を聞きやすくする機能です。
使用するマイクにより、表示される画面および設定項目が異なります。

● パソコン本体の内蔵マイクを使用する場合



(1) マイク効果の設定を変更する
- 全てオフ
  すべてのマイク効果を無効にします。
- 単一指向モード
  オンライン通話アプリで一人で通話するときに使用します。
  ※パソコン正面で会話してください。パソコンの横から拾われる音は低減されるため、相手への音声が小さくまたは聞こえなくなります。
- 無指向性モード
  複数人でオンライン通話アプリで通話するときに使用します。
  ※全方向からの音をマイクが拾うため、周囲の通話に参加していない人の声も拾うのでご注意ください。
- ASR拡張モード
  音声認識をしやすくします。（AIノイズ除去は設定できません。）
- 次の録音モードは内部処理を高品質に行うモードです。
  動画の撮影などで使用できます。（AIノイズ除去などのAI機能には対応していません。）
  - 片方向録音　　：横方向からの音を低減して録音します。
  - 無指向性録音　　：全方位の音を録音します。
  - ステレオ拡張録音：左右（ステレオ）方向からの音を録音します。

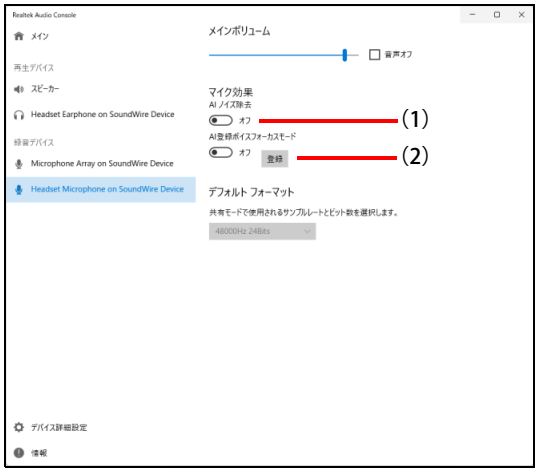
(2) AIノイズキャンセラーの設定を変更する
- チェックを付ける：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）を有効にします。
- チェックを外す　：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）を無効にします。

(3) 遠方音声ピックアップ（FFP）
- チェックを付ける：数メートル離れたところで発生した声も拾いやすくします。
- チェックを外す　：遠方音声効果を無効にします。

(4) AI登録ボイスフォーカスモード
事前に声を登録することで、登録した声を強調しそれ以外の声を低減します。
- チェックを付ける：オンライン通話で通話者の声を強調します。
- チェックを外す　：本効果を無効にします。

※ 声を登録する場合は、「□ 特定の声を登録する」（→P.38）をご覧ください。

● **オーディオ端子に機器を接続／USBコネクタに機器を接続／Bluetooth接続した場合**



(1) AIノイズキャンセラーの設定を変更する
- オン：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）を有効にします。
- オフ：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）を無効にします。

(2) AI登録ボイスフォーカスモード

事前に声を登録することで、登録した声を強調しそれ以外の声を低減します。
- オン：オンライン通話で通話者の声を強調します。
- オフ：本効果を無効にします。

※ 声を登録する場合は、「□ 特定の声を登録する」（→P.38）をご覧ください。

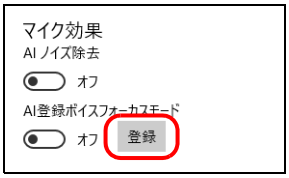
POINT

- 上記画面はオーディオ端子に機器を接続した場合の表示例です。
  「録音デバイス」には、接続した機器が表示されます。使用したい機器を選択してください。
- 表示される設定項目名が異なる場合があります。
- 接続した機器や選択した項目によっては、一部使用できない機能（グレーアウトし選択不可）があります。

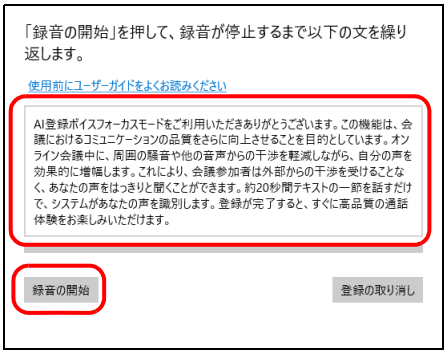
□特定の声を登録する

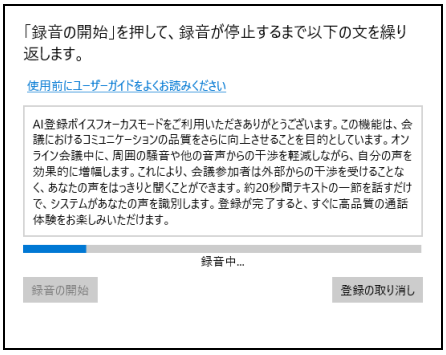
次の手順で、声を登録してください。

1 「AI登録ボイスフォーカスモード」の「登録」をクリックします。



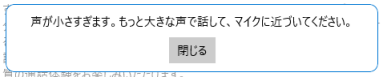
2 「録音の開始」をクリックし、囲みの文章または任意の文章を読み上げ声を録音します。
読み上げている音声を検知すると、プログレスバーが進行します。

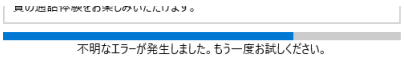




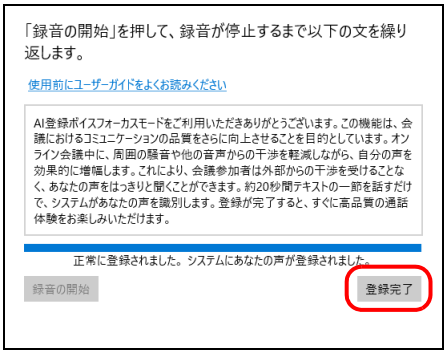
重 要

- エラーが発生したときは、もう一度「録音の開始」からやり直してください。
  うまく録音できない場合は、次のようなメッセージが表示されます。





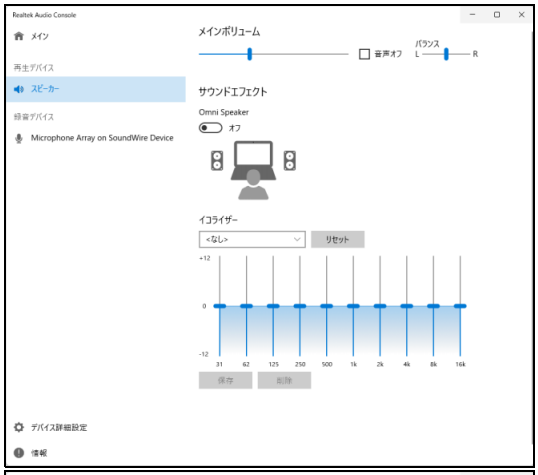
3 正常に登録されたというメッセージが表示されたら、「登録完了」をクリックします。

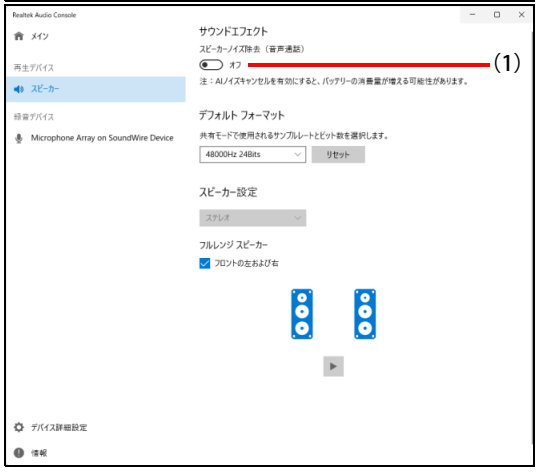


■ スピーカーの効果を設定する

通話相手のノイズを低減し、自身が聞きやすくなる機能です。
使用するスピーカーにより、表示される画面が異なります。

● パソコン本体の内蔵スピーカー使用／オーディオ端子に機器を接続した場合





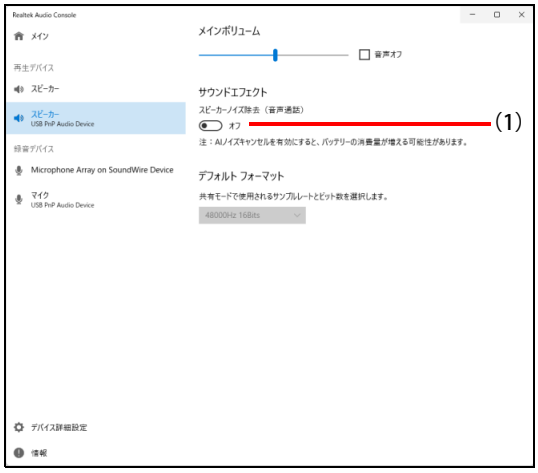
以降の項目はスクロールすると表示されます。

(1) 通話相手からのノイズを低減する
通話相手からの音声に環境ノイズが混じり、聞き取りづらいときに使用します。
- オン：通話相手側のノイズを低減します。
- オフ：この機能を無効にします。

POINT

- 上記画面はパソコン本体の内蔵スピーカーを使用した場合の表示例です。
「再生デバイス」には、接続した機器が表示されます。使用したい機器を選択してください。
- 表示される設定項目名が異なる場合があります。
- 接続した機器や選択した項目によっては、一部使用できない機能（グレーアウトし選択不可）があります。

● **USBコネクタに機器を接続／Bluetooth接続した場合**



(1) 通話相手からのノイズを低減する

通話相手からの音声に環境ノイズが混じり、聞き取りづらいときに使用します。

・ オン：通話相手側のノイズを低減します。

・ オフ：この機能を無効にします。

POINT

- 上記画面はUSBコネクタに機器を接続した場合の表示例です。
  「再生デバイス」には、接続した機器が表示されます。使用したい機器を選択してください。
- 表示される設定項目名が異なる場合があります。
- 接続した機器や選択した項目によっては、一部使用できない機能（グレーアウトし選択不可）があります。

2.7 省電力

ここでは、パソコンを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.7.1 省電力状態

パソコンを使用しないときに、画面を消灯して消費電力を抑えます。

省電力状態	説明
スリープ （モダンスタンバイ）	メモリに作業中のデータなどを保存し、Windowsの動作を一時的に停止させ待機状態になります。 パソコンの電源は入っているため、すぐにレジュームできます。 スリープ中は、対応アプリを使用することによりメールを受信できます。 バッテリー運用時は、状況により消費電力をより抑えるモードに入る場合があります。その場合はメールの受信は止まります。 ※待機状態および対応アプリ稼働中は電力を消費するので、バッテリー駆動時間は短くなります。 ※スリープ中はWindows Updateなど一部の機能が動作することがあります。そのためファンが回転したりバッテリーの消費が増える場合があります。 ※スリープ状態になってからバッテリー残量が減少すると、休止状態に移行します。 また、パソコンのハードウェア構成や接続されている周辺機器によって、スリープから休止状態に移行するまでの時間は異なります。
休止状態[注]	フラッシュメモリに作業中のデータなどを保存し、電源を切ります。 ただし、作業中のデータなどを保存しているため、パソコンの起動後に作業を再開できます。 レジュームはスリープよりも少し時間がかかります。

注　：休止状態を「有効」にする場合は設定が必要です。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- スリープ中にACアダプタを接続するとスリープからレジュームしますが、ユーザー操作がない場合は数秒でスリープ状態に戻ります。
- 休止状態では、メールは受信できません。
  また、スリープ時に動作していたWindows Updateなど一部の機能は動作しません。
- 電源が入っているときに液晶ディスプレイを閉じてもスリープしない設定にしたときは、パソコンの液晶ディスプレイを閉じないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
  その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

ご購入時は次のように設定されています。

パソコンの動作	操作／条件
スリープに移行	「スタート」ボタン→ ⏻（電源）の順にクリックし、「スリープ」を選択する
	電源ボタンを押す[注1]
	液晶ディスプレイを閉じる[注2]
	一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.45）
休止状態に移行[注3]	「スタート」ボタン→ ⏻（電源）の順にクリックし、「休止状態」を選択する
	バッテリー残量が少なくなる 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.45）
	一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.45）

注1：電源ボタンは10秒以上押さないでください。電源ボタンを10秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。
注2：液晶ディスプレイを閉じた後は、電源ランプ（→P.19）で省電力状態になったことを確認してください。
省電力状態にならないと放熱が妨げられ、故障の原因となります。
注3：休止状態を「有効」にする場合は設定が必要です。

■ 省電力状態からレジュームする

ご購入時は次のように設定されています。

パソコンの動作	代表的な操作／条件
スリープからレジュームする	電源ボタンを押す
	液晶ディスプレイを開く[注1]
	USBマウスで次の操作をする ・クリックボタンを押す
	Bluetoothマウスで次の操作をする[注2] ・クリックボタンを押す ・スクロールボタンを動かす ・マウスを動かす
	フラットポイントを操作する
	キーボードの操作をする
	対応アプリからの起動[注2]
休止状態からレジュームする	電源ボタンを押す
	液晶ディスプレイを開く[注1]

注1：液晶ディスプレイを開いたときの設定は、「カバーを閉じたときの動作」の設定と連動します。
注2：バッテリー運用時は、使用状況によりレジュームしない場合があります。その場合は電源ボタンを押してレジュームしてください。

2.7.2　電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切る前に、あらかじめディスクを取り出してください（→P.62）。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、パソコン本体の電源を切ります。

□Windowsを終了する

1. 「スタート」ボタン→（電源）の順にクリックします。
2. 「シャットダウン」をクリックします。

□完全に電源を切る

重 要

- 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
  - ・BIOSセットアップを起動する
  - ・診断プログラムを使用する
  - ・メモリを交換する
  - ・バッテリーを交換する
  - ・フラッシュメモリデータ消去

1. 「スタート」ボタン→（設定）の順にクリックします。
2. 「システム」→「回復」の順にクリックします。
3. 「PCの起動をカスタマイズする」の「今すぐ再起動」をクリックします。
4. 「今すぐ再起動」をクリックします。
5. 「PCの電源を切る」をクリックします。

2.7.3　本パソコンの節電機能

本パソコンには、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となるパソコンの状態との関係は次のとおりです。

節電機能	パソコンの状態			
	電源オン	スリープ状態	休止状態	電源オフ
省電力設定（→P.44） パソコンの消費電力を低減する。	○	—	—	—
省エネ機能（→P.46） 【ECO】キーで省エネ機能を切り替える。	○	—	—	—
バッテリーの電源モード（→P.46） バッテリーの消費量を抑える。	○	—	—	—
ピークシフト（→P.47） ACアダプタとバッテリーの運用を切り替える。	○	—	—	—

2.7.4　省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えたり設定を変更することで、消費電力を抑えることができます。

■ 電源プランを切り替える

1 **「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.7）を表示します。**

2 **「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。**
「電源オプション」が表示されます。

3 **お使いになる電源プランをクリックします。**

POINT

- ご購入時の電源プランは「Fujitsu電源設定」が選択されています。使用する状況によりプランを変更してください。
  また、電源プランは新規に作成することができます。

□ 新規に電源プランを作成する場合

1 **「電源オプション」ウィンドウ左のメニューで「電源プランの作成」をクリックします。**
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、メッセージに従って操作します。

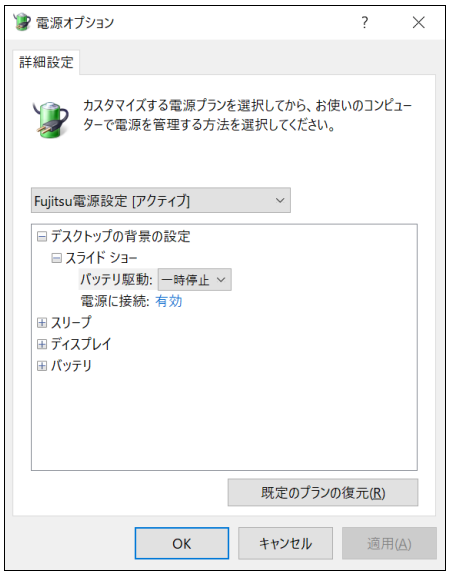
■ 電源プランの設定を変更する

1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.7）を表示します。

2 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」が表示されます。

3 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。

4 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。



（表示されるリストは、
お使いの機種により異なります。）

5 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

6 「OK」をクリックします。

2.7.5 省エネ機能

省エネ機能を有効にすると、バッテリー運用時にシステムやアプリ全体の電力使用量を自動的に管理して、電力消費を低減しバッテリーの寿命を延ばすことができます。
本パソコンでは、【Fn】＋【F10（ECO）】キーを押すごとに、次の設定で省エネ機能を切り替えることができます。

常時	・バッテリー運用時は常に省エネ機能をオンにする ・画面の明るさを下げる
30%	バッテリー運用時にバッテリー残量が30%以下になると、自動的に省エネ機能をオンにする

POINT

- 【F10（ECO）】キーの位置については、「1.6 キーボード」（→P.17）をご覧ください。
- F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F10（ECO）】キーを押すだけで設定を切り替えることができます。

省エネ機能の設定内容は変更できます。設定を変更したい場合は、次の手順を行ってください。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「電源とバッテリー」をクリックします。**

3 **「省エネ機能」をクリックします。**
それぞれの項目の設定を変更してください。
・常に省エネ機能を使用する
・バッテリー残量が次の値の時に自動的に省エネ機能をオンにする
・省エネ機能を使用中の画面の明るさを下げる

重 要

- 上記手順で設定を変更した後に【F10（ECO）】キーを押すと、「常時」と「30%」での切り替えとなります。省エネ機能の設定内容を変更して運用したい場合は、【F10（ECO）】キーではなく上記手順で行ってください。

2.7.6 バッテリーの電源モード

使用状況にあわせて電源モードを切り替えることで、バッテリーの消費量を抑えることができます。
次の手順で設定を切り替えてください。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

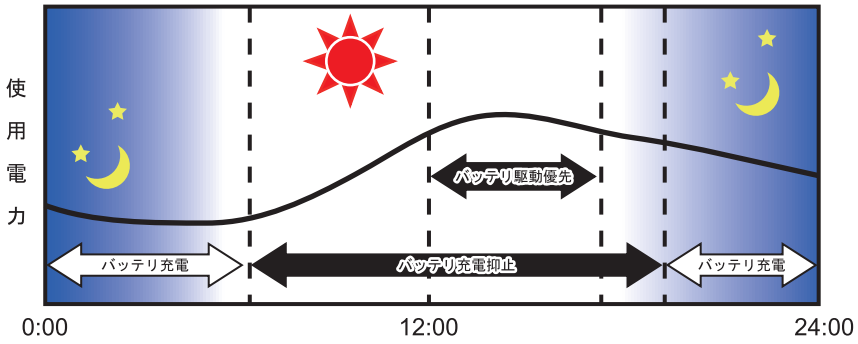
2 **「電源とバッテリー」をクリックします。**

3 **「電源モード」でお使いになるモードを選択します。**
「最適な電力効率」、「バランス」、「最適なパフォーマンス」から選択します。

2.7.7　ピークシフト

設定した時間にあわせてACアダプタ運用とバッテリー運用を切り替えられる機能です。
1日のうち電力需要のピークタイムをはさんでパソコンを連続してお使いになる場合に有効です。

● 使用例



重 要

- バッテリーは消耗品であり、充放電を繰り返すたびに少しずつ性能が劣化します。ピークシフトを利用するとバッテリーの充放電回数が増えるため、性能劣化が早まる場合があります。
  なお、バッテリーが劣化している場合には、バッテリー駆動時間が短くなり、充分な効果を得られないことがあります。
- スリープ中にピークシフト終了設定時刻になると、一旦パソコンがレジュームしてからピークシフトが終了します。
  省電力設定（→P.44）が次の場合は、そのままパソコンが起動したままになります。
  ・電源プランの「電源に接続」の設定
  「ディスプレイの電源を切る」および「コンピューターをスリープ状態にする」が「適用しない」
  消費電力を抑えるためには、任意の時間を設定してください。

■ ピークシフトを設定する

ピークシフトが動作する期間と、バッテリー駆動優先の時間帯、バッテリー充電抑止の時間帯を設定できます。一度設定を行うと、パソコンが起動するたびに、自動的に有効になります。

1　「スタート」ボタン→ （設定）→「Extras」→「ピークシフト設定」の順にクリックします。
「ピークシフト設定」が表示されます。

2　必要に応じて、設定を変更します。
詳しい使い方は、画面右上の「？（ヘルプ）」アイコンをクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

POINT

- 「ピークシフト設定」では、2つの期間を設定できます。
  例えば、期間1に夏季、期間2に冬季の設定を行うなどのように使用します。

2.8 バッテリー

ここでは、バッテリーを使用して本パソコンを使用する方法や注意事項について説明しています。バッテリーの充電時間や駆動時間など、バッテリーの仕様については「5.1 本体仕様」（→P.98）をご覧ください。

2.8.1 注意事項

■ バッテリーの取り扱い

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。
  詳しくは、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
- バッテリーを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり強い衝撃を与えたりしたバッテリーは使用しないでください。
- バッテリーやパソコン本体のバッテリーコネクタには触れないでください。
- バッテリーは分解しないでください。
- 長期間（約1ヶ月以上）本パソコンを使用しないときは、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- 高温環境に放置しないでください。バッテリーが劣化します。

■ バッテリーで運用するとき

- 本パソコンの使用中にバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリーの残量に注意してお使いください。バッテリーの残量を確認するには、「2.8.3 バッテリーの残量を確認する」（→P.51）をご覧ください。
- 本パソコンを長く使用していると、バッテリーの残量が正確に表示されなくなる場合があります。故障ではありませんのでそのままお使いください。
  残量が正しく表示されるようにするには、定期的に「バッテリーユーティリティ」の「バッテリー残量補正」（→P.56）を行ってください。
  または、バッテリーを満充電まで充電した後に一度完全に放電すると、自動的に補正され正しい値になります。（→P.55）
- パソコンの機能を多用したり負荷の大きいアプリを使用したりすると、多くの電力を使用するためバッテリー駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続してください。
- バッテリーが満充電状態のときに、ACアダプタを接続したまま放置しないでください。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリー駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力が低下します。
  また、ACアダプタを接続している場合も、パソコン本体の使用状況により、バッテリー残量が減る場合があります。
- 充電保管庫などの密閉環境で複数台のパソコンを一度に充電する場合、密閉環境内に熱がこもりバッテリー充電時間が仕様と異なることがあります。また、温度条件により充電が停止することがあります。

- バッテリー残量が空の状態で本パソコンに添付のACアダプタを接続した直後は、電源ボタンを押しても電源が入らない場合があります。この場合は、1分程度ACアダプタを挿した状態でお待ちください。自動的に起動しない場合は、再度電源ボタンを押してください。
- バッテリー部は通常のご使用時および充電時に多少温かくなりますが、異常ではありません。
- 長期間パソコンを使用しない場合には、高温環境となる保管場所は避け、バッテリー残量を50%程度にしてから保管してください。
  また、長期間使用しない場合においても2年以内に必ず充電を行ってください。
- バッテリーの残量が残りわずかの場合、バッテリー運用またはUSB Type-Cコネクタから5Vで給電中のときは、本パソコンは起動しません。本パソコンに添付のACアダプタを接続してください。
- 「バッテリー残量1%未満です。ACアダプタを抜かずにバッテリーを充電してください。バッテリーが1%以上充電されるまでパソコンのパフォーマンスが低下します。」というメッセージが表示された場合は、バッテリー残量が1%に到達するまでシステムの電力保護のためにパフォーマンスを下げて動作します。その間、パソコンの起動やアプリの動作に通常よりも時間がかかります。

■ バッテリーの寿命

□ 寿命となる要因

① バッテリーの充電／放電を繰り返した回数（サイクル数）
② バッテリーが満充電状態でACアダプタを接続したまま放置
③ 高温環境での使用／保管、使用時の負荷が高いなど、環境温度が高温である

POINT

▸ バッテリーの寿命を延ばすため「バッテリーユーティリティ」の充電モードで、満充電にならないように設定できます。

□ 寿命について

- バッテリーは消耗品です。
- バッテリーの寿命は、使用環境および保管方法、ご使用の時間や頻度によって大きく異なります。
- 長期間使用し、次のような症状が出た場合、バッテリーの寿命が考えられます。
  ・バッテリーの駆動時間や充電時間が極端に短くなる
  ・満充電にならなくなる
  ・充電できなくなる
  ・使用中に勝手に電源が切れる
- バッテリーはご使用条件により、寿命が近づくにつれて膨れる場合があります。リチウムイオンバッテリーの特性であり、安全上問題はありません。ただし、内部機器を圧迫し故障の原因となりますので、修理を依頼してください。
- パソコン本体を長期間使用しなかった場合にも、バッテリーは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリーの満充電量を抑えることにより、バッテリーの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「2.8.5 バッテリーの充電モードを変更する」（→P.54）をご覧ください。

■ バッテリー駆動時間について

- 本パソコンは、他メーカーのバッテリー駆動時間との比較のために、共通の測定方法として一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法」を採用しています。
- バッテリー駆動時間はお使いの環境によって大きく異なります。
  次のことを行うことにより、バッテリー駆動時間を延ばすことができます。
  ・液晶ディスプレイの画面を暗くする
  詳しくは、「2.3.2 明るさを調整する」（→P.25）をご覧ください。
  ・省電力機能を活用する
  詳しくは、「2.7 省電力」（→P.41）をご覧ください。
  ・時間のかかるアプリ（ウイルス対策アプリのスキャンなど）は、ACアダプタを接続して使用する

  POINT

  ▶ 消費電力が大きいアプリは次の操作で確認できます。（バッテリー運用時のみ）
  1.「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にクリックします。
  2.「電源とバッテリー」をクリックします。
  3.「バッテリーの使用状況」をクリックして、表示された「アプリごとのバッテリー使用量」で消費電力が大きいアプリを確認します。

  ・周辺機器を取り外す
  ・無線LAN／Bluetoothの電波を停止する
  詳しくは、「2.10.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する」（→P.67）をご覧ください。
  ・音声出力をミュート（消音）に切り替える
  詳しくは、「2.6.2 アプリごとの再生音量を調節する」（→P.31）をご覧ください。

この他、ドライバーや各種アプリを最新の状態に更新することで、バッテリー駆動時間を延ばせる可能性があります。詳しくは、「BIOSやドライバーのアップデートについて」（→P.8）をご覧ください。

2.8.2 バッテリーを充電する

1 **パソコン本体にACアダプタを接続します。**

充電が始まります。バッテリーの充電状態は、バッテリーステータスランプ（→P.19）で確認できます。

バッテリーステータスランプ	バッテリーの充電状態
オレンジ色[注1]	充電中
消灯	充電完了

注1 ：点滅している場合は、バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリーの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリーの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。

POINT

▶ バッテリーを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
・充電モードが「フル充電モード」で、バッテリーの残量が90%以上の場合
・充電モードが「80%充電モード」で、バッテリーの残量が70%以上の場合
バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

2.8.3　バッテリーの残量を確認する

バッテリーの残量は、バッテリーステータスランプ（→P.19）で確認できます。

バッテリーステータスランプ	バッテリーの残量
消灯	100%～21%
赤色	20%～0%

重 要

- 短い間隔で赤色に点滅している場合は、バッテリーの異常です。
  「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ バッテリーステータスランプが赤色に点灯したら

バッテリーの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 充電済みのバッテリーに交換する（→P.52）
- 本パソコンを休止状態にする
  「■ 省電力状態にする」（→P.42）
- 作業を終了して本パソコンの電源を切る
  「2.7.2 電源を切る」（→P.43）

ご購入時は、バッテリーの残量が約10%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.45）をご覧ください。

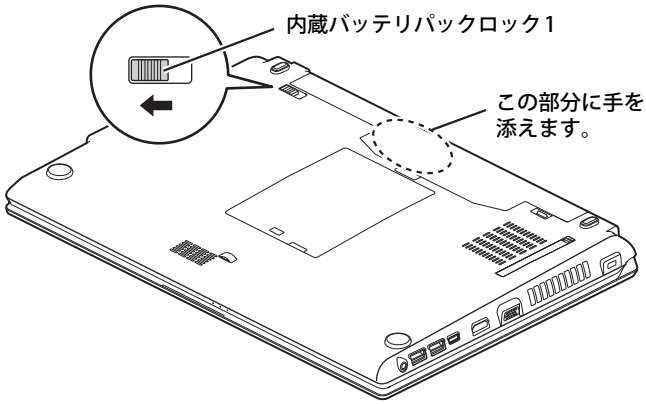
2.8.4　バッテリーを交換する

ここでは内蔵バッテリパックの交換方法について説明します。
交換したバッテリーの処分については、『製品ガイド（共通編）』の「廃棄・リサイクル」をご覧ください。

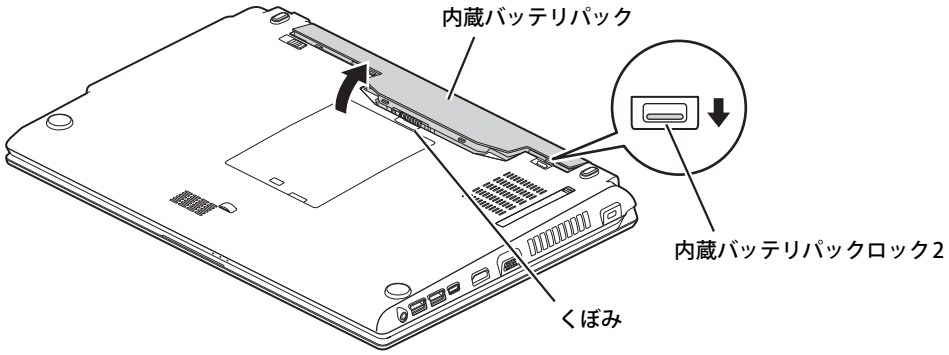
1 **パソコンの電源を切り、ACアダプタを取り外します。**
電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.43）をご覧ください。

2 **液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を静かに裏返します。**

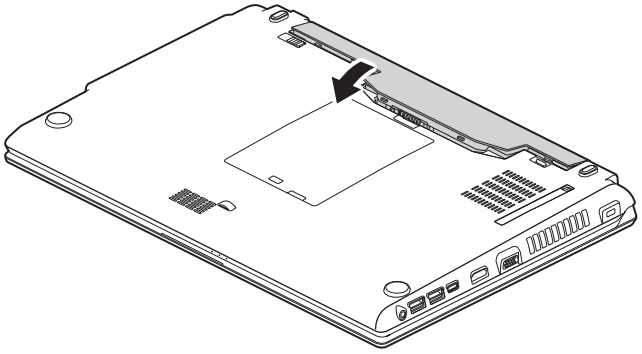
3 **内蔵バッテリパックロック1を矢印の向きにスライドします。**
内蔵バッテリパック（点線部分）を軽く押さえながら、スライドしてください。



4 **内蔵バッテリパックロック2を矢印の向きに押したままくぼみに指をかけ、内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げて取り外します。**

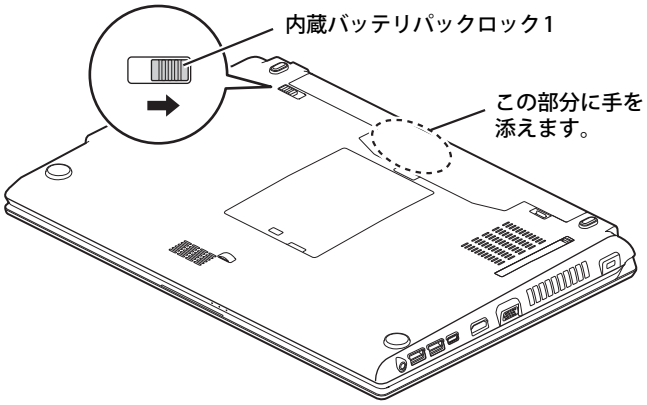


5 **内蔵バッテリパックのロックが解除されていることを確認し、新しい内蔵バッテリパックのふちとパソコン本体のふちを合わせ、しっかりとはめ込みます。**



6 **内蔵バッテリパックロック1を矢印の向きにスライドして、内蔵バッテリパックをロックします。**

内蔵バッテリパック（点線部分）を軽く押さえながら、スライドしてください。



2.8.5　バッテリーの充電モードを変更する

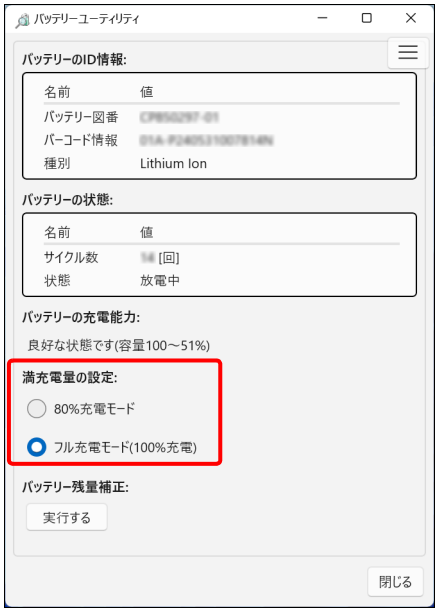
バッテリーの充電モードを「80%充電モード」に変更し、バッテリーの満充電量を抑えることにより、バッテリーの寿命を延ばすことができます。

重 要

- 「80%充電モード」に設定すると、バッテリー駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。
- ACアダプタを接続して使用することが多い場合は、「80%充電モード」に設定することをお勧めします。

1 **「スタート」ボタン→「すべて」の「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。**

2 **満充電の設定で「80%充電モード」または「フル充電モード（100%充電）」を選択します。**



3 **「閉じる」をクリックします。**

2.8.6　バッテリーの状態を確認する

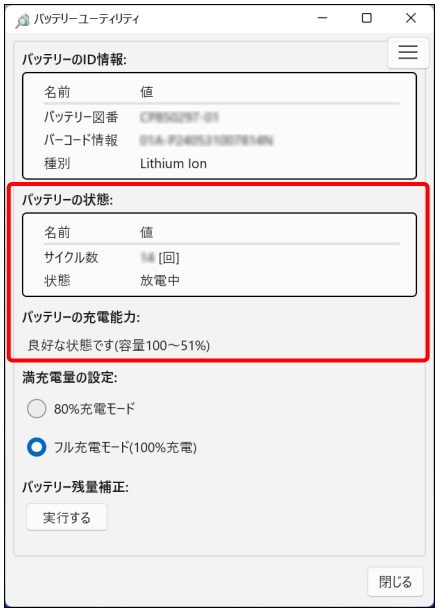
バッテリーの情報や消耗状態の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

重 要

- バッテリーの残量や消耗状態を正しく表示するには、定期的な満充電／完全放電が必要になります。
  満充電／完全放電を行わずに使い続けると、「バッテリーユーティリティ」に表示される残量や消耗状態が、実容量と著しく異なることがあります。
- 満充電／完全放電するには、次のいずれかの操作を行ってください。
  ・「バッテリーユーティリティ」の「バッテリー残量補正」を実行してください。（→P.56）
  ・満充電後ACアダプタを取り外し、BIOSセットアップ画面の状態で電源が切れるまで放電してください。
  自動で電源が切れると、放電が完了します。
  BIOSセットアップについては、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」―「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧ください。

1 「スタート」ボタン→「すべて」の「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。

2 バッテリーの状態で「サイクル数」や「状態」、バッテリーの充電能力で「消耗状態」を確認します。



3 「閉じる」をクリックします。

2.8.7　バッテリーの残量補正をする

パソコン本体を長い間使用していると、バッテリパックの劣化などにより、バッテリー残量や消耗状態が正しく表示されない場合があります。
バッテリー残量補正をすることでバッテリーの残量や消耗状態を正しく表示します。
バッテリー残量補正ではバッテリーを満充電にした後、完全に放電させることでバッテリー容量を計測し、補正します。

重 要

- バッテリー残量補正をするためには、「バッテリーユーティリティ」が必要となります。
  お客様専用のマスタを作成する場合や他のOSをお使いになる場合は、必ず「バッテリーユーティリティ」をインストールしてください。
- 定期的にバッテリー残量補正を実施することで、「バッテリーユーティリティ」に表示される残量や消耗状態を正しく表示できます。
- バッテリー残量補正には時間がかかりますが、故障ではありません。

■ 注意事項

□バッテリー残量補正について

- 残量補正実行中は、パソコン本体を使用できません。
  実行には最大10時間程度かかります。作業時間を確保したうえで実施してください。
- 内蔵バッテリパックとACアダプタ以外の周辺機器は取り外してください。
- 周囲の温度が10℃～30℃の場所で行ってください。
- 低温、高温状態で実行すると、正しく補正されない場合があります。
- 保管庫内など、熱がこもる場所で実行しないでください。
- 頻繁に行うと、バッテリーの劣化の原因になるおそれがあります。
- バッテリーの容量を増やすものではありません。
- 内蔵バッテリパックを2個以上お持ちの場合、内蔵バッテリパックごとに行ってください。

□バッテリー残量補正実行中は次のことは行わないでください

バッテリー残量補正実行中に次のことをすると残量は補正されません。

- パソコン本体に布などを被せる
- LCDパネルを閉じる
- ACアダプタを取り外す
- 内蔵バッテリパックを取り外す
- パソコン本体の電源を切る

■ バッテリー残量補正手順

重 要

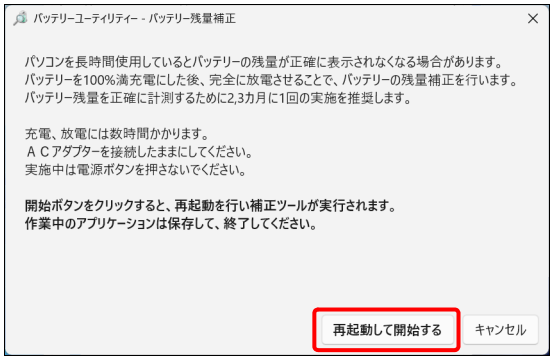
- バッテリー残量補正を行う前に、必ず次のことを確認してください。
  - 作業中のアプリやファイルは保存して終了してください。
  - ACアダプタが接続されていることを確認してください。
  - 充電モードを「フル充電モード（100%充電）」に設定し直してください。（→P.54）

1 「スタート」ボタン→「すべて」の「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。

2 バッテリー残量補正で「実行する」をクリックします。

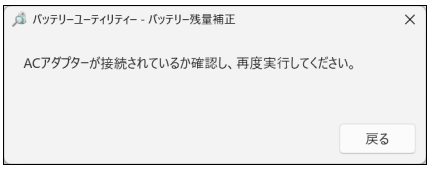


3 「再起動して開始する」をクリックします。



重 要

- ACアダプタが接続されていないと、次の画面が表示されます。
  ACアダプタを接続してから「戻る」をクリックし、手順3からやり直してください。



- バッテリー残量補正実行中は、電源ボタンを押さないでください。

本パソコンが再起動し、「バッテリー残量補正」画面が表示されます。

4 【Y】キーを押します。

POINT

- すぐに実行しない場合は【N】キーを押して電源を切ってください。

この後は、次の順番で自動で実行されます。すべての処理が終了し、電源が切れるまでお待ちください。

1. 充電　　：一度バッテリーを満充電にします。
2. 放電　　：充電完了後、放電します。
3. 自動電源オフ：バッテリー容量の計測、補正が完了したら自動的に電源が切れます。

重 要

- 「バッテリー残量補正」画面に表示される残り時間は目安です。
- バッテリー残量が90%以上ある場合は、残量が88%になるまで放電してから充電が開始されます。
- バッテリー残量補正を途中で中止したいときは【Esc】キーを押して中止できます。
- バッテリー残量補正実行中にエラーコードが表示された場合は、表示されたメッセージに従ってください。

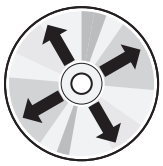
2.9 光学ドライブ

対 象　光学ドライブ搭載機種

ここでは、光学ドライブとCD／DVDなどのディスクの取り扱いについて説明しています。ディスクの取り扱いについては、お使いのディスクのマニュアルをご覧ください。また、光学ドライブの仕様については、「5.4 光学ドライブ」（→P.111）をご覧ください。

2.9.1 注意事項

- ディスクアクセスランプ（→P.19）が点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因となりますので絶対に使わないでください。
- ディスクの取り扱いについて
  - ・ディスクの裏面（記録面）に「傷・指紋・汚れ・ほこり・水・油・塩分」などが付着しないようにしてください。
  - ・ディスクの裏面（記録面）に汚れ・ほこりが付着した場合は、メガネ拭きのような柔らかい布で傷を付けないように軽く拭き取ってください。
  - ・ディスクを拭くときは、内から外へ向かって直線的、放射状に拭いてください。



○：内から外



×：円周方向

2.9.2 使用できるディスク

■ 注意事項

- 直径8cmまたは直径12cm、厚さ1.14mm～1.5mmの円形のディスクのみ使用できます。
  ただし、直径8cmのディスクは、読み込みにのみ対応しています。それ以外のディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- ゆがんだディスク、重心の偏ったディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- 記載されているディスクが販売されていない場合もあります。

■ 使用できるディスク

お使いの光学ドライブの欄をご覧ください。

ディスク	スーパーマルチドライブ			DVD-ROMドライブ		
	読込	書込	書換	読込	書込	書換
CD-ROM	○	×	×	○	×	×
音楽CD	○	×	×	○		
ビデオCD	○	×	×	×		
CD-R	○	○	×	○		
CD-RW[注1]	○	○	○	○		
DVD-ROM	○	×	×	○		
DVD-Video	○	×	×	○		
DVD-R（4.7GB）	○	○	×	○		
DVD-R DL（8.5GB）[注2]	○	○	×	○		
DVD-RW	○	○	○	○		
DVD+R（4.7GB）	○	○	×	○		
DVD+R DL（8.5GB）	○	○	×	○		
DVD+RW（4.7GB）	○	○	○	○		
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB）[注3]	○	○	○	○		

注1 ： Ultra Speed CD-RWディスクは使用できません。
注2 ： 追記はできません。また追記されたディスクの読み込みは保証しません。
注3 ： ・カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。
・2.6GBおよび5.2GBのディスクは使用できません。

■ 推奨ディスク

対 象　スーパーマルチドライブ搭載機種

光学ドライブで書き込みや書き換えを行う場合は、次のディスクの使用をお勧めします。それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのWebサイトなどをご覧ください。

ディスク種別	メーカー	型名
CD-R	Verbatim（バーベイタム）	SR80SP10V1、SR80SP20V1
CD-RW	Verbatim（バーベイタム）	SW80EU5V1、SW80QU5V1、SW80QM5V1、SW80QP5V1
DVD-R	Verbatim（バーベイタム）	DHR47JPP10、DHR47JP10V1
DVD-R DL	Verbatim（バーベイタム）	DHR85HP5V1、DHR85HP10V1、DHR85HP10SV1
DVD-RW	Verbatim（バーベイタム）	DHW47Y10V1
DVD+R DL	Verbatim（バーベイタム）	DTR85HP5V1、DTR85HP10V1

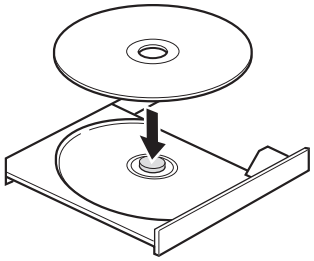
2.9.3 ディスクをセットする

1 **トレーを開きます。**

ディスク取り出しボタン（→P.13）を押し、少し出てきたトレーの中央を持って静かに引き出します。

2 **ディスクをトレーに載せます。**

ディスクのレーベル面を上にしてトレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、「パチン」と音がするまでやさしくはめ込みます。



重 要

- ディスクをトレーの金属部に押しつけないでください。金属部と接触すると、ディスクに傷が付く原因となります。
- はめ込みが固い場合は、ディスクの穴と中央の突起がずれている可能性があります。
  位置を合わせ直してセットしてください。

3 **トレーを閉じます。**

「カチッ」と音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

重 要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

POINT

- 光学ドライブにディスクをセットして「PC」ウィンドウの光学ドライブアイコンをクリック（設定によってはダブルクリック）すると、パソコンがディスクを認識する前にトレーが自動的に開くことがあります。ディスクをセットした後30秒程度待ち、ディスクアクセスランプ（→P.19）が消えてからディスクの操作を行ってください。

2.9.4 ディスクを取り出す

ディスクを取り出す前に、次のことを確認してください。

- ディスクアクセスランプ（→P.19）が点灯していないこと。
  ディスクアクセスランプが消灯するまで待ってください。
- アプリがディスクを使用していないこと。
  アプリの機能を使ってトレーを開くか、アプリを終了してください。詳しくはお使いのアプリのマニュアルをご覧ください。
- ディスク上のファイルを開いていないこと。
  ファイルを閉じてください。

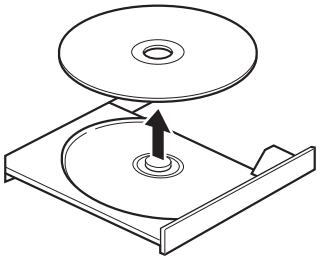
上記の項目を確認してもトレーが開かない場合は、本パソコンを再起動してください。本パソコンを再起動してもトレーが開かない場合は、「■ トレーを強制的に開く」（→P.62）をご覧ください。

1 **トレーを開きます。**

ディスク取り出しボタン（→P.13）を押し、少し出てきたトレーの中央を持って静かに引き出します。

2 **ディスクを取り出します。**

トレー中央の突起を押さえながらディスクのふちを持ち上げて、ディスクを外します。



3 **トレーを閉じます。**

「カチッ」と音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

重 要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

■ トレーを強制的に開く

「2.9.4 ディスクを取り出す」（→P.62）の手順でトレーが開かない場合は、次の手順でトレーを開きます。

重 要

- どうしてもトレーが開かない場合にのみ実行してください。

1 **パソコン本体の電源を切ります。**

2 **強制取り出し穴（→P.13）に、太めのペーパークリップを伸ばしたものなどを、トレーが少し出てくるまで押し込みます。**

3 **トレーを静かに引き出します。**

2.9.5　ディスクに書き込む

対 象　スーパーマルチドライブ搭載機種

記録可能ディスクに書き込むには「Power2Go」を使用します。詳しくは、次の手順で「Power2Go」のヘルプをご覧ください。

重 要

- 「Power2Go」をお使いになる場合は、インストールする必要があります。
  インストール方法については、『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」―「「Power2Go」／「PowerDVD」のインストール」をご覧ください。

1 「スタート」ボタン→「すべて」の「CyberLink Power2Go 8」→「CyberLink Power2Go 8」の順にクリックします。

2 右上の「?（ヘルプ）」アイコンをクリックします。

POINT

- DVD-RAMはフォーマットすることにより、USBメモリのように直接エクスプローラーなどで書き込むことができます。DVD-RAMをフォーマットするには「■ DVD-RAMをフォーマットする」（→P.64）をご覧ください。

■ 注意事項

- 本パソコンで作成したディスクは、ディスクの種類や書き込み形式などにより他の機器では使用できない場合があります。お使いの機器で使用できるディスクの種類や書き込み形式などについては、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。また、ディスクの記録状態によっても使用できない場合があります。
- 光学ドライブにディスクをセットしてすぐに操作をすると、パソコンがディスクを認識する前にトレーが自動的に開くことがあります。
  ディスクをセットした後30秒程度待ち、ディスクが使用可能になってから操作を行ってください。
- ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、ディスク取り出しボタンを押したりしないでください。また、省電力状態にもしないでください。
- ディスクへの書き込みには高い処理能力が必要です。ディスクに書き込み中は、他のアプリを使用しないことをお勧めします。
- ディスクへの書き込みには多くの電力を消費します。ディスクに書き込み中は、パソコン本体にACアダプタを取り付けることをお勧めします。
- 自動再生が有効に設定されていると、ディスクへの書き込みができない場合があります。その場合は次の手順で自動再生を無効に設定してください。
  1. 「スタート」ボタン→（設定）→「デバイス」の順にクリックします。
  2. 「Bluetoothとデバイス」をクリックします。
  3. 「自動再生」をクリックします。
  4. 「すべてのメディアとデバイスで自動再生を使う」をオフにします。
- 「Power2Go」は、パケットライトによる書き込みには対応していません。
- 外付け光学ドライブをお使いになる場合も、外付け光学ドライブに添付されている「Power2Go」ではなく、本パソコンの「Power2Go」をお使いください。

■ DVD-RAMをフォーマットする

DVD-RAMを初めてお使いになる場合や、すべてのデータを消去する場合は次の手順でDVD-RAMをフォーマットします。

POINT

- 両面タイプのDVD-RAMディスクは片面ごとにフォーマットします。

1 フォーマットするDVD-RAMをセットします（→P.61）。

2 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。

3 ウィンドウ左の「PC」をクリックします。

4 光学ドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。

5 必要に応じて「ファイルシステム」などを設定します。

6 「開始」をクリックし、以降は表示されるメッセージに従います。

2.9.6 DVD-Videoを再生する

DVD-Videoは「PowerDVD」で再生します。詳しくは、次の手順で「PowerDVD」のヘルプをご覧ください。

重 要

- 「PowerDVD」をお使いになる場合は、インストールする必要があります。
  インストール方法については、『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」―「「Power2Go」／「PowerDVD」のインストール」をご覧ください。

1 「スタート」ボタン→「すべて」の「CyberLink PowerDVD 14」の順にクリックします。

2 右上の「？（ヘルプ）」アイコンをクリックします。
ヘルプが表示されます。

■ 注意事項

- すべてのDVD-Videoの再生を保証するものではありません。
- DVD-Videoの再生には高い処理能力が必要です。DVD-Videoの再生中は、他のアプリを使用しないことをお勧めします。コマ落ちや音飛びが発生する場合があります。
- ディスクによっては、専用の再生アプリが添付されているものがあります。
  ディスクに添付されている再生アプリをインストールした場合、そのアプリによる再生および「PowerDVD」での再生は保証しません。
- リージョンコードについて
  - ・本パソコンのリージョンコードがDVD-Videoのリージョンコードに含まれているか、リージョンフリーのDVD-Videoのみ再生できます。DVD-Videoのリージョンコードは、ディスクまたはパッケージに記載されています。ご購入時の本パソコンのリージョンコードは日本国内向けに設定されています。
  - ・本パソコンに設定されているリージョンコードと異なるリージョンコードのDVD-Videoを再生しようとすると、リージョンコードの変更を確認する画面が表示されます。必要に応じてリージョンコードを変更してください。
  - ・本パソコンのリージョンコードはご購入後4回まで変更できます。

2.10 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.98）をご覧ください。

2.10.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「3.3.5 LANコネクタ」（→P.90）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

POINT

- 本パソコンはMACアドレスパススルー機能に対応しています。
  この機能をご利用になるには、MACアドレスパススルーに対応した周辺機器と接続する必要があります。
  また、本機能について次の注意事項をご確認ください。
  - ご購入時は無効に設定されています。設定の変更はBIOSセットアップで行います。
    BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」→「MACアドレスパススルー」を「使用する」に設定してください。
    BIOSセットアップについては、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」―「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧ください。
  - 本機能に対応した周辺機器の同時使用（有線LANの複数接続）はできません。
  - 本機能でネットワークに接続した後に、本機能に対応した他の周辺機器でネットワークに接続できないことがあります。
    同一のDHCPサーバからIPアドレスを取得する場合、先にDHCPサーバに接続した周辺機器がIPアドレスを取得しているため、後から接続した周辺機器はIPアドレスを取得できません。
    他の周辺機器から接続したい場合は、パソコンを再起動するか、先に接続した周辺機器を取り外すことで、IPアドレスを取得できます。

2.10.2　無線LAN

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
また、無線LANの仕様については、「5.5 無線LAN」（→P.112）をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「バージョン情報」をクリックします。**

3 **「デバイス マネージャー」をクリックします。**
「デバイス マネージャー」が表示されます。

4 **「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。**
本パソコンに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

2.10.3　Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。
また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「5.1 本体仕様」（→P.98）をご覧ください。

2.10.4　無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。電波の発信／停止は次の手順で変更できます。

■ 設定方法

1 「スタート」ボタン→ (設定)→「ネットワークとインターネット」の順にクリックします。

2 「機内モード」をクリックします。

3 「機内モード」または「ワイヤレス デバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。

	「オン」に設定	「オフ」に設定
機内モード[注1]	すべての無線通信機能の電波を停止[注2]	機内モードを解除[注2]
ワイヤレス デバイス	電波を発信	電波を停止

注1：・ キーボードの【F4】キーと連動しています。
【Fn】＋【F4】キーを押すたびに機内モード（→P.67）のオン／オフが切り替わります。
・ F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F4】キーを押すだけで電波の発信／停止が切り替わります。
注2： 機内モードの「オン」「オフ」それぞれに対し、ワイヤレス デバイスの状態を個別に設定できます。

■ 機内モードについて

機内モードとは、パソコンに搭載されている無線通信機能の電波を一斉に停止する機能です。機内モードを「オン」にすると、すべての無線通信機能の電波が「停止」します。
また、機内モードの「オン」「オフ」に対して、ワイヤレス デバイスの状態（オン／オフ）を個別に設定することもできます。

● **ワイヤレス デバイスの個別設定**
ワイヤレス デバイスの設定状態を、「機内モード」の「オン」「オフ」のときそれぞれに対し個別に設定すると、ワイヤレス デバイスの設定状態が保持されます。

例：Bluetoothのみを個別に設定した場合

1. 「機内モード」が「オン（電波停止）」のときに、Bluetoothを個別に「オン（電波発信）」にします。
2. その後「機内モード」を「オフ（電波発信）」にすると、ワイヤレス デバイスはすべて「オン」になります。
3. 再度「機内モード」を「オン（電波停止）」にしても、Bluetoothは手順1で設定した状態を保持するため「オン」のままとなります。

上記の個別設定を解除する場合は、「機内モード」を「オン（電波停止）」にしてBluetoothを「オフ」にしてください。

また、「機内モード」が「オフ（電波発信）」のときに個別に設定した場合も、同様にワイヤレス デバイスの設定状態が保持されます。

2.11 暗号化機能付フラッシュメモリ

「暗号化機能付フラッシュメモリ」は、OSやプログラムを含むフラッシュメモリ上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。
また、BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、フラッシュメモリへのアクセスはパスワードで管理されます。本パソコンからフラッシュメモリを抜き取り、他のパソコンに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重 要

- ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」―「BIOSのパスワード機能を使う」をご覧ください。

2.12 セキュリティチップ （TPM）

セキュリティチップ（TPM）は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをフラッシュメモリに残さないため、フラッシュメモリが盗まれても暗号を解析できません。

2.13 電源オフUSB充電機能

本パソコンには電源オフ時のUSB充電に対応したコネクタを搭載しています。
電源オフUSB充電機能とは、パソコンが電源オフ状態や省電力状態の場合でも、USB充電に対応した周辺機器を充電できる機能です。

2.13.1 注意事項

- 本パソコンに搭載されているUSB Type-Cコネクタは電源オフUSB充電機能に対応しています。
- ご購入時は有効に設定されています。
- USB対応周辺機器によっては、電源オフUSB充電機能を使用できない場合があります。
- 電源オフUSB充電機能が有効に設定されている場合、省電力状態からレジュームしたときに、本機能に対応したUSBコネクタに接続したUSB対応周辺機器で次の現象が発生することがあります。これらの現象が発生してもUSB対応周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
  - ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
  - ・「自動再生」ウィンドウが表示される
  - ・接続したUSB対応周辺機器と連携しているアプリが起動する
  - ・接続したUSB対応周辺機器のドライブ名が変わる

2.13.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する

電源オフUSB充電機能の設定変更はBIOSセットアップで行います。
設定変更の方法については、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」―「電源オフUSB充電機能の設定を変更する」をご覧ください。

2.14 AIカメラエフェクター

カメラが人を検知すると、カメラ映像にエフェクトをかける機能です。

■ 注意事項

- 本パソコンに搭載されているWebカメラで使用できます。
- ご購入時は、AIカメラエフェクター機能は「オフ」に設定されています。
- 次の場合は適切に動作しないことがあります。
  - ・マスクや眼鏡着用時
  - ・周囲の環境、服装、帽子、髪型などにより、人の検出ができない場合
  - ・顔が正面をむいていない場合
  - ・複数人がカメラに写りこむ場合
- カメラエフェクトをサポートする他のアプリを使用して本機能を無効にするには、他アプリと本アプリの両方でエフェクト機能を「オフ」にする必要があります。

■ エフェクターを設定する

1 **「スタート」ボタン→ (設定)→「Extras」→「Camera Effect Setting」の順にクリックします。**
「Camera Effect Setting」が表示されます。

2 **必要に応じて、設定を変更します。**
詳しくは、画面右上の「？（ヘルプ）」アイコンをクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

2.15 Windows Hello

対 象　顔認証対応Webカメラ搭載機種／指紋センサー搭載機種

顔や指紋を認識してサインインできるWindows Helloという機能が搭載されています。Windows Helloを使うと、サインイン時にパスワードやPINを入力する必要がなくなります。

2.15.1 Windows Helloを使って顔認識でサインインする

カメラの位置は「1章　各部名称」（→P.10）をご覧ください。

■ Windows Helloの顔認識機能をお使いになるうえでの注意

- Windows Helloの顔認識機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Helloをお使いになるには、PINを設定しておく必要があります。
- カメラによる顔認識を設定している場合でも、パスワードやPINの入力でサインインできます。
  また、顔認証でサインインできない場合も、同様にパスワードやPINの入力でサインインしてください。
- Windows Helloで登録した顔情報は、パソコンにのみ保存されインターネット上にアップロードされることはありません。
- 顔の登録および顔認識時に適切な顔の位置は、パソコンの正面でパソコンからの距離が約30cmから75cmです。
  カメラが顔を認識できるように、必要に応じて液晶ディスプレイの角度などを調整してください。
- Windows Helloの顔認識機能は赤外線を使用しています。次のような環境では、顔認証が正しく検出できないことがあります。
  ・パソコンの顔認証対応Webカメラや顔に直接日差しが当たる場所
  ・晴れた日の屋外や窓際など
  正しく検出するために上記の場所での使用を避け、直接日差しが当たらないようにカーテンなどで日差しを遮ってください。
  また、窓際で使用したり、窓に向かってパソコンを設置したりすることは避けてください。
- 赤外線を含む電球（白熱電球など）を使用している場合は、パソコンの顔認証対応Webカメラや顔に電球の光が当たらないようにしてください。
- パソコンの顔認証対応Webカメラの発光部を長時間見つめないでください。
- 顔の登録および顔認識時は、Webカメラ状態表示LEDが点灯します。
- 本パソコンに搭載されているカメラは顔認証に最適化されたカメラです。
  カメラの視野に人の顔がある場合、人の顔に対して優先的に露出補正を行います。
  そのため、周囲の明るさと人の顔の明るさの差が大きい場合、人の顔の露出は適正になりますが、周囲の露出は適正でない状態で撮影されることがあります。

■ 顔を登録する

Windows Helloの顔認識機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→ （設定）→「アカウント」の順にクリックします。

2 「サインイン オプション」をクリックします。

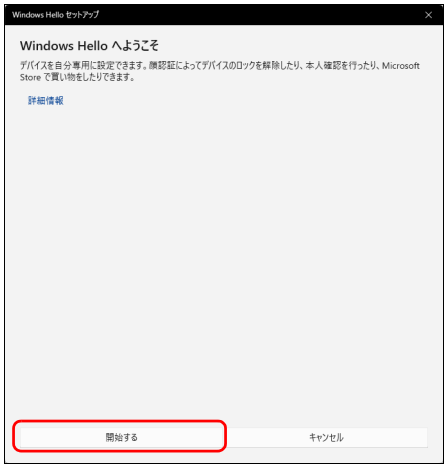
3 「顔認識（Windows Hello）」→「セットアップ」の順にクリックします。

POINT

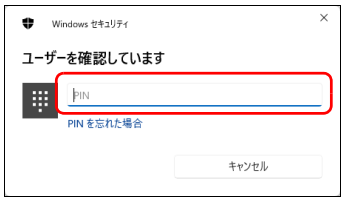
- PINを設定していない場合は「PIN（Windows Hello）」をクリックして、先にPINの設定を行ってください。

「Windows Helloセットアップ」ウィンドウが表示されます。

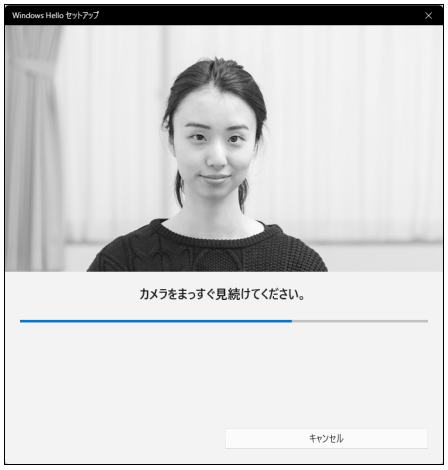
4 「開始する」をクリックします。



5 PINを入力します。



6 画面の指示に従って、顔を登録します。



7 顔の登録が完了したら、「閉じる」をクリックします。
必要に応じて「精度を高める」をクリックし、顔を登録し直します。



POINT

- 「閉じる」をクリックした後でも精度を高めることができます。
  手順3の「サインインオプション」の画面で「顔認証（Windows Hello）」の「認識精度を高める」をクリックし、再度顔認識を行ってください。

■ 顔認識でサインインできるか確認する

1 「スタート」ボタン→（アカウント名）→「ロック」の順にクリックし、ロック画面を表示します。

2 顔認証対応Webカメラに顔を認識させて、サインインできるか確認します。

POINT

- サインインできなかった場合
  画面の指示に従って、PINまたはパスワードを入力してサインインし、顔の登録をやり直してください。

2.15.2　Windows Helloを使って指紋認証でサインインする

指紋センサーの位置は「1章　各部名称」（→P.10）をご覧ください。

■ Windows Helloの指紋認証機能をお使いになるうえでの注意

- Windows Helloの指紋認証機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Helloをお使いになるには、PINを設定しておく必要があります。
- 指紋認証を設定している場合でも、パスワードやPIN入力によるロック解除は可能です。
- Windows Helloで登録した指紋情報は、パソコンにのみ保存され、インターネット上にアップロードされることはありません。
- 修理などにより、指紋認証機能が使用できなくなる場合があります。
  修理後に指紋認証機能が使用できなくなった場合は、指紋を登録し直してください。

□指紋センサーに関するご注意

- 次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
  ・指紋センサー表面をひっかいたり、先のとがったものでつついたりした場合
  ・指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
  ・泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
  ・指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合
- 指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。
  静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。

□指紋登録時、 照合時のご注意

- 本機能は、画像に含まれる指紋の特徴をもとに照合を行うものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録操作ができない場合があります。
- 本パソコンに登録できる指紋は、最大で10個です。
  ・複数のアカウントを設定して利用する場合、すべてのアカウントで登録している指紋が合計で10個以内になるようにしてください。
  ・10個を超えて登録しようとすると登録時にエラーとなります。
- Windows Helloの指紋登録は、20回程度のタッチが必要になります。
- 指紋の登録は、指先ではなく指の中心が触れるように、指紋センサーの中央をタッチしてください。
- 指紋の登録で失敗が続く場合は、タッチする指の位置や角度を変えてください。
- 指の状態が次のような場合は、指紋の登録や指紋認証が困難になることがあります。
  なお、指を強く押し当てる、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態に合わせて対処することで、状況が改善されることがあります。
  ・お風呂上がりなどで指がふやけている場合
  ・指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
  ・手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合
  ・手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
  ・指が泥や油などで汚れている場合
  ・太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
  ・磨耗して指紋が薄くなった場合
  ・指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
  ・濡れたり、汗をかいたりしている場合
  ・指が小さい場合

- センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてから使用してください。
- 各指で指紋が異なりますので、必ず登録を行った指で認証の操作を行ってください。
- 指紋認証が頻繁に失敗する場合は、登録した指紋を削除して、指紋の登録をやり直してください。

□指紋の読み取り方

指紋登録時と同じように指を置き、センサーにしっかりと触れてください。

■指紋を登録する

Windows Helloの指紋認識機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

1 **「スタート」ボタン→ (設定）→「アカウント」の順にクリックします。**

2 **「サインイン オプション」をクリックします。**

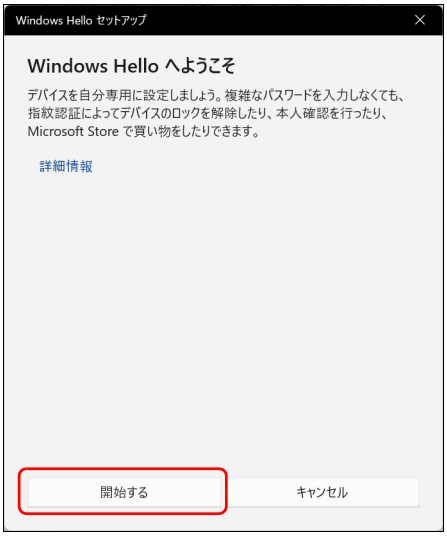
3 **「指紋認識（Windows Hello)」→「セットアップ」の順にクリックします。**

POINT

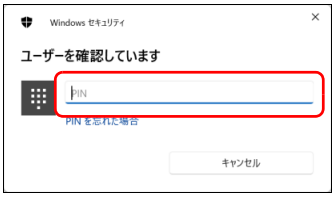
▶ PINを設定していない場合は「PIN（Windows Hello)」をクリックして、先にPINの設定を行ってください。

「Windows Helloセットアップ」ウィンドウが表示されます。

4 **「開始する」をクリックします。**



5 **PINを入力します。**

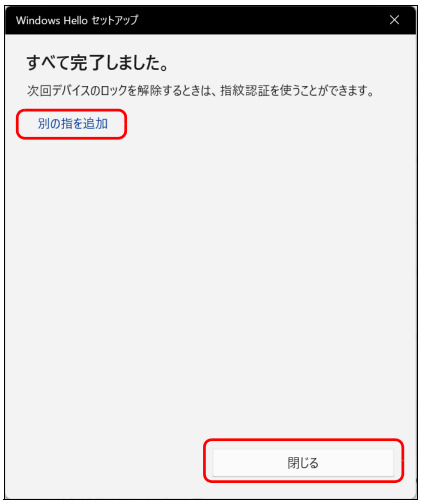


6 画面の指示に従って、指紋を登録します。



数回タッチします。

7 指紋の登録が完了したら、「閉じる」をクリックします。
必要に応じて「別の指を追加」をクリックします。



■ 指紋認証でサインインできるか確認する

1 「スタート」ボタン→（アカウント名）→「ロック」の順にクリックし、ロック画面を表示します。

2 指紋センサーに指紋を認識させて、サインインできるか確認します。

POINT

- サインインできなかった場合
  画面の指示に従って、PINまたはパスワードを入力してサインインし、指紋の登録をやり直してください。

■ 登録 ・ 認証がうまくいかないときは

□ 登録 ・ 認証しにくい指の状態と対処方法

次の対処を行ってください。

指の状態	対処方法
手が濡れたり汗をかいている	・指を拭いてください。 ・センサー面に指を置いた跡が見える場合はセンサー面も拭いてください。 （改善されない場合は、指紋を登録し直してください。）
手が荒れたり乾燥している	・指に息を吹きかけてください。 ・ウェットティッシュなどで指紋部分を軽く湿らせてください。 ・指を強めに長く押し当ててください。
指に傷がある 磨耗して指紋が薄い	・登録する指を変えてください。

□ 登録や認証が困難なケース

- お風呂上がりなどで指がふやけている場合
- 指が小さい場合（小学生以下など小柄な方）

□ 指紋センサー面の汚れ

指紋センサー面が汚れていると指紋を正確に読み取れません。
指紋の登録・認証失敗が頻発するときは、乾いた柔らかい布（メガネ拭きなど）で軽く拭いてください。
指紋の登録時には、短時間に連続して指紋の取得を行うため指紋の跡が残りやすく、1回の指紋取得ごとにセンサー面の汚れの拭き取りが必要になる場合があります。

2.16 手のひら静脈センサー

対 象　手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサーで手のひら静脈を認識することで、Windowsにサインインできます。

重 要

- 本センサーをお使いになるには、専用の認証アプリが必要となります。
  詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

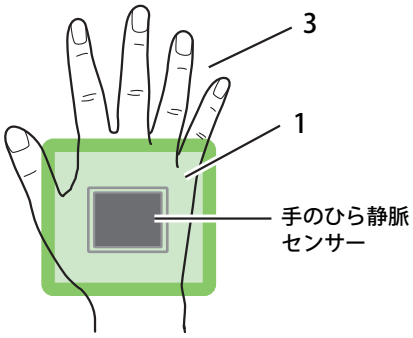
■ 手のひら静脈の読み取り方

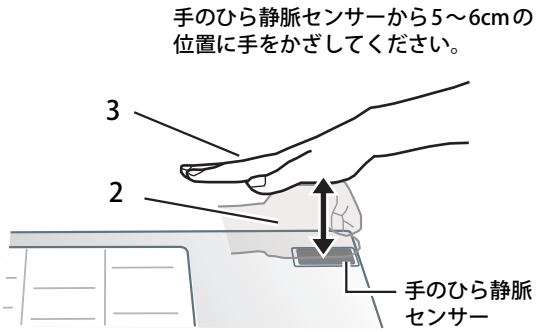
手のひら静脈の登録や認証は、手のひらを正しい位置でかざす必要があります。
次の手順で読み取ってください。

1 **手のひら静脈センサーが手のひらの中央にくるようにかざします。**

2 **画面に表示される案内に従い、手のひら静脈センサーに対して手のひらの中心を合わせ、こぶし1つ分の距離（5～6cm）で水平にかざします。**

3 **指を軽く開いて伸ばします。**



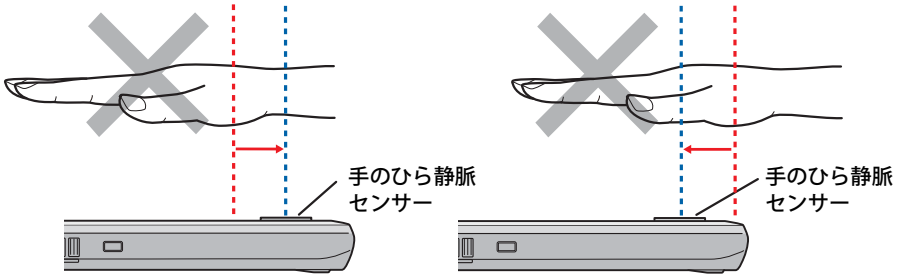


POINT

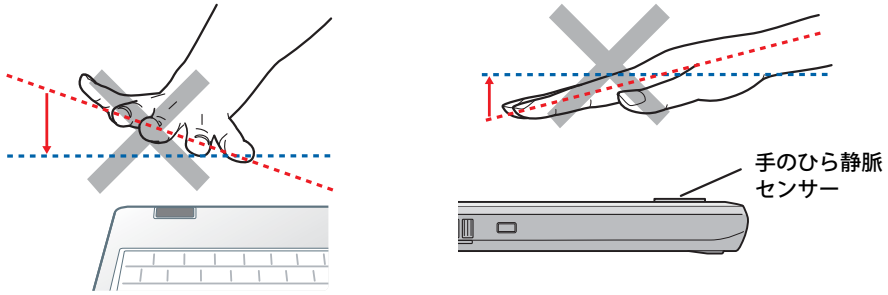
- 手のひらが動いている状態では正しく認証できません。認証中は、手のひらを正しい姿勢で水平に保ち、静止させてください。

□次のような手のかざし方は正しく登録／認証できません

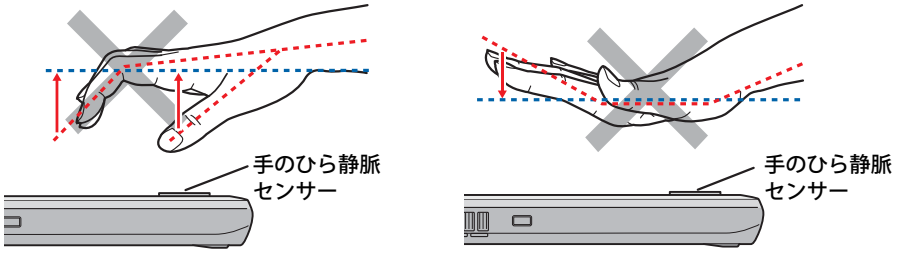
問題点　：手のひら静脈センサーと手のひらの位置がずれています。
対処方法：手のひら静脈センサーが手のひらの中央にくるようにかざしてください。



問題点　：センサー面に対して手のひらが水平になっていません。
対処方法：センサー面に対して手のひらが水平になるようにかざしてください。



問題点　：指が伸びていない。または、そっています。
対処方法：指を軽く開いて伸ばしてください。



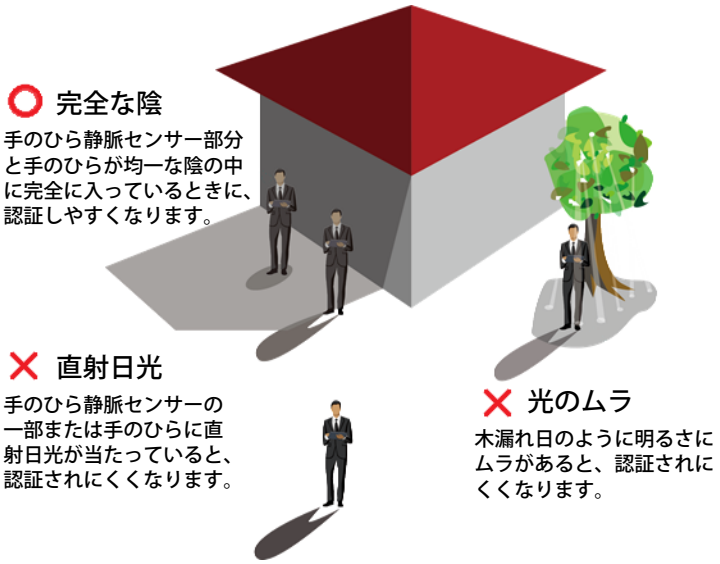
■ 取り扱い上の注意

□ 屋外での使用について

日光の当たる屋外では、注意が必要です。手のひら静脈センサーや手のひらが完全に陰に入るようにしてください。

POINT

- 光にムラのない陰の中で認証を行うと、屋外でも認証がスムーズになります。
- 登録のときは屋内で使用し、日光が差し込む窓際での使用は避けてください。



□ 手のひら静脈センサーの周囲について

手のひら静脈センサーの近くに物があると、手のひら静脈データの登録や手のひら静脈認証が正しくできない場合があります。
センサーの周囲に、次のようなすき間を空けてください。

- センサー面から上に20cm以上
- センサーの左右に10cm以上

上記のすき間は、紙や壁などの光を散乱したり反射したりする物に対して定めています。
なお、周囲に鏡や金属などの光沢がある物があると、距離に関係なく正しく認証できない可能性があります。

□ 手のひら静脈の登録時／認証時の注意事項

手のひらが次のような状態の場合には、手のひら静脈を正しく登録できず、認証しにくいことがあります。

- 手のひらが汚れている、ぬれている、またはけがをしている
- 手のひらに、ばんそうこうや包帯を付けている
- 手のひらに、そで口がかかっている
- 手袋や、ブレスレットなどをしている

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に 83
3.2 メモリ 84
3.3 コネクタの接続／取り外し 88

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。
必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。
  詳しくは、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、充分に待ってから作業を始めてください。
  やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。
  詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 メモリ

ここでは、本パソコンにメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.83）をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

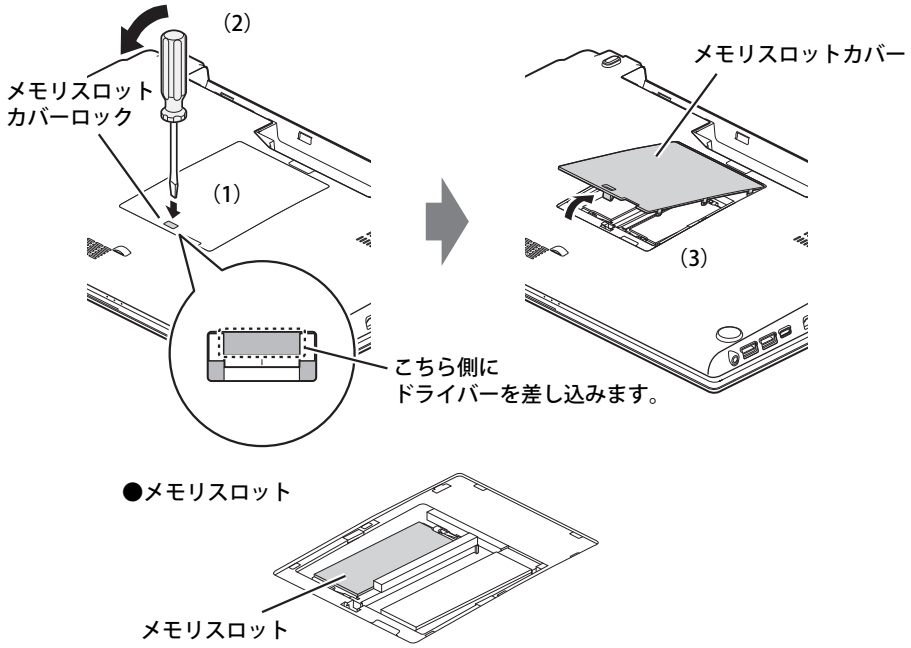
- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。電源の切り方については、「2.7.2 電源を切る」（→P.43）をご覧ください。また、バッテリパックを取り外してください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。
  また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- マイナスドライバーを用意してください。
- メモリ増設後、本パソコンの起動に時間がかかる場合がありますが、「FUJITSU」ロゴが表示されるまでそのままお待ちください。

3.2.2　メモリを取り付ける

1 「2.8.4 バッテリーを交換する」（→P.52）をご覧になり、バッテリーを取り外します。

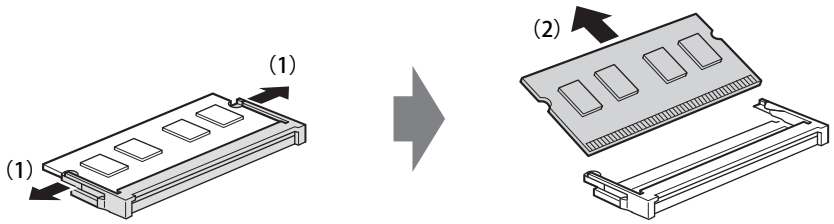
2 メモリスロットカバーを取り外します。

1. メモリスロットカバーロックにマイナスドライバーを差し込みます。
2. 矢印の方向にマイナスドライバーを倒します。
3. ドライバーを倒したまま、メモリスロットカバーを取り外します。



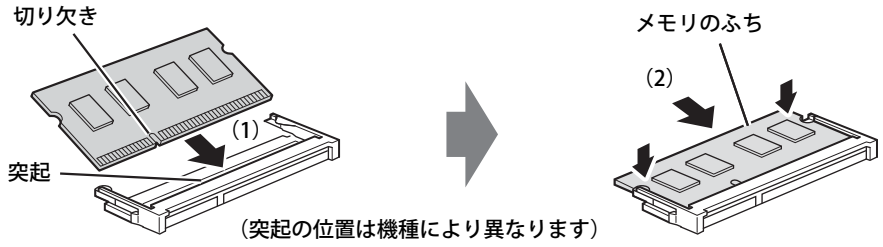
3 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。

1. メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除します。
2. メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。



4 メモリを取り付けます。

1. メモリの切り欠き部とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込みます。
2. メモリのふちを押しながらメモリを下に倒します。メモリスロット両側のフックがメモリを固定していることを確認してください。

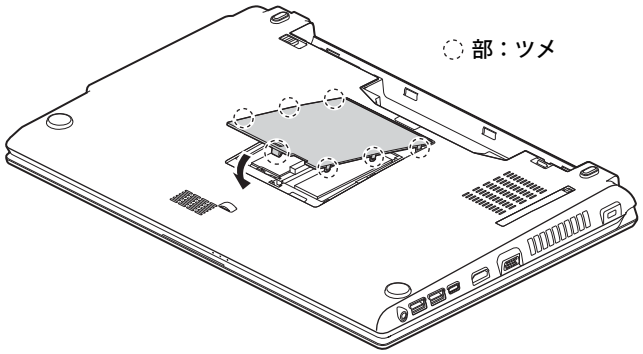


重 要

- メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

5 メモリスロットカバーを取り付けます。

メモリスロットカバーのふちを合わせ、そのままツメの位置がずれないように閉じます。



6 「2.8.4 バッテリーを交換する」（→P.52）をご覧になり、バッテリーを取り付けます。

POINT

- メモリ交換後、最初にパソコンの電源を入れるときには、必ずACアダプタを接続した状態で電源ボタンを押してください。ACアダプタを接続しないとパソコンの電源が入りません。

7 BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」―「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧になり、「情報」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

重 要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりします。
  その場合は電源ボタンを10秒以上押して本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。
  それでも本パソコンが起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.2.3 メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。

重 要

- 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

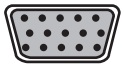
3.3 コネクタの接続／取り外し

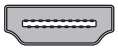
ここでは、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.98）をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.83）をお読みになってから作業をしてください。

3.3.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.3.2 ディスプレイコネクタ


アナログディスプレイコネクタ


HDMI出力端子

外部ディスプレイを接続します。パソコン本体の電源を切ってから接続してください。

重 要

- USB Type-Cコネクタについては、「3.3.3 USBコネクタ」（→P.89）をご覧ください。

■ 接続する

1 **パソコン本体の電源を切ります。**

2 **ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。**
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

3 **ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。**

■ 取り外す

重 要

- マルチディスプレイ機能（→P.27）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□アナログディスプレイコネクタ

1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

□HDMI出力端子

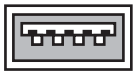
1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.3.3 USBコネクタ



USB Type-Cコネクタ



USB Type-Aコネクタ

USB対応周辺機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

POINT

- USB Type-Cコネクタは、どちらの向きでも差し込むことができます。

■ 取り外す

重 要

- USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。

1. 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（ ）をクリックします。
2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。

2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.3.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重 要

- ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

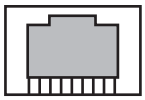
■ 接続する

1 **ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。**
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 **ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。**

3.3.5 LANコネクタ



LANケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。
ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

重 要

- 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

1 **LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。**
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 **ケーブルコネクタのツメを押さえながら、LANケーブルをまっすぐに引き抜きます。**

4

第4章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

4.1 日常のお手入れ 92
4.2 定期的なお手入れ 94

4.1 日常のお手入れ

パソコン本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

4.1.1 パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。
中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重 要

- 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重 要

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

4.1.2 手のひら静脈センサー

対 象 手のひら静脈センサー搭載機種

センサー部にほこりや汚れが付いたりすると、認証の精度が低下する可能性があります。
センサーのほこりや汚れは、次の方法で取り除いてください。

- ほこりは乾いた柔らかい布で軽く払います。
- 汚れは乾いた柔らかい布で軽く拭き取ります。

重 要

- 水を使用しないでください。損傷する原因となります。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

4.1.3 液晶ディスプレイ

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重 要

- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコン本体が倒れるおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
  - ・アルカリ性成分を含んだもの
  - ・界面活性剤を含んだもの
  - ・アルコール成分を含んだもの
  - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - ・研磨剤を含むもの

4.2 定期的なお手入れ

長期間パソコンを使用していると、通風路やパソコン内部にほこりがたまります。ほこりがたまった状態で使用し続けると、故障の原因となりますので、定期的にお手入れをしてください。また、本パソコンに添付されているアプリ「お手入れナビ／RAS Utility」で、お手入れの時期をお知らせするメッセージを表示できます。

4.2.1 注意事項

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、必ず次の事項を行うようにしてください。
  - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
    電源の切り方については、「2.7.2 電源を切る」（→P.43）をご覧ください。
  - ・周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。
  - ・バッテリーを取り外してください。
- 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。

4.2.2 空冷用通風路

本パソコンは、性能を維持するために放熱用のファンを内蔵しています。放熱用ファンは、パソコン本体の外側と内側の間に空気の流れを作ってパソコン本体内部を冷却しているため、お使いの環境によってはパソコン本体内部に周囲のほこりを取り込んでしまうことがあります。このほこりが徐々に蓄積していくと、パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。

重 要

- 感電のおそれがありますので、清掃前には必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、ACアダプタ、バッテリーを取り外してください。
  パソコン本体の電源の切り方については、「2.7.2 電源を切る」（→P.43）をご覧ください。

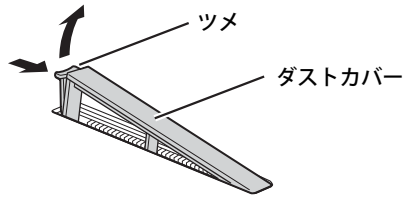
■ お手入れのしかた

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 「2.8.4 バッテリーを交換する」（→P.52）をご覧になり、バッテリーを取り外します。

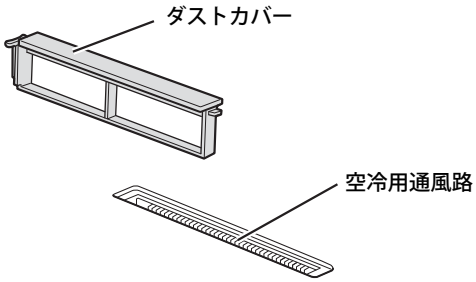
4 ツメを矢印の方向に押しながら持ち上げ、ダストカバーを取り外します。



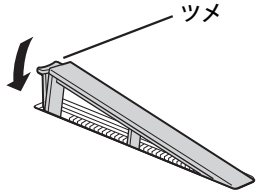
5 ダストカバーと空冷用通風路のほこりを取り除きます。

重 要

- ほこりを取り除くときは、プラスチック製のようじや歯間ブラシなどをお使いください。金属などの硬いものや、木製の折れやすいものなどを使うと故障の原因となります。
- 金属部分を傷付けないように注意してください。



6 ツメのない側から差し込み、「カチッ」と音がするまでしっかりはめ込みます。



7 「2.8.4 バッテリーを交換する」（→P.52）をご覧になり、バッテリーを取り付けます。

重 要

- ダストカバーを取り外したまま使用しないでください。取り外したまま使用すると、故障の原因となります。

4.2.3 お手入れナビ／RAS Utility

■ お手入れナビ／RAS Utilityとは

パソコンの異常を検知した場合や、空冷用通風路のお手入れ時期およびほこりが詰まっていることなどを自動的にお知らせするアプリです。
パソコン本体内部の温度や、本パソコンの総利用時間をチェックし、お手入れの時期をお知らせします。

重 要

- 「お手入れナビ／RAS Utility」をお使いになる場合は、インストールする必要があります。
  インストール方法については、『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」―「「ドライバーズディスク検索」からのインストール」をご覧ください。

■ 表示されるメッセージ

「お手入れナビ／RAS Utility」の表示するメッセージには、次のものがあります。

メッセージ	原因と対処
パソコンの通風孔（空冷用通風路）などのお手入れ時期が来ました。	定期的なお手入れの時期が来ると表示されます。 ご購入時は、定期的な通知は無効になっています。
	「4.2.2 空冷用通風路」（→P.94）をご覧になり、空冷用通風路のほこりを取ってください。
パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。	ファンが高速で回転しているのに、パソコン本体内部の温度が低くならない場合に表示されます。
	・パソコン本体の周囲に10cm以上のすき間を空け、排気孔などをふさがないようにしてください。 ・「4.2.2 空冷用通風路」（→P.94）をご覧になり、空冷用通風路のほこりを取ってください。
パソコンのCPUファンが正しく動作していません。	次の場合に表示されます。 ・パソコン本体内部の温度が高いのに、ファンが高速で回転していない場合
	空冷用ファンの故障が考えられますので、電源を切った後、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

■ 設定を変更する

本アプリの設定を変更することにより、空冷用通風路のお手入れの通知時期の変更や、メッセージを表示させないようにします。
通知時期を変更する方法については、「お手入れナビ／RAS Utility」のヘルプをご覧ください。

POINT

- 「お手入れナビ／RAS Utility」のヘルプは、次の手順で表示されます。
  1.「スタート」ボタン→「すべて」の「お手入れナビ／RAS Utility」→「ヘルプ」の順にクリックします。

5

第5章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

5.1 本体仕様 98
5.2 CPU 108
5.3 ディスプレイ 109
5.4 光学ドライブ 111
5.5 無線LAN 112

5.1 本体仕様

お使いのモデルの仕様一覧をご確認ください。
・「5.1.1 LIFEBOOK A5516/B」（→P.99）
・「5.1.2 LIFEBOOK A5516/BW」（→P.103）

また、次の対応表でお使いの機種に搭載されているCPUと対応した列をご確認ください。

CPU名称	仕様一覧表の表記
Intel® Core™ 7 プロセッサー 360	Core 7 360
Intel® Core™ 5 プロセッサー 330	Core 5 330
Intel® Core™ 5 プロセッサー 315	Core 5 315

5.1.1 LIFEBOOK A5516/B

LIFEBOOK A5516/B					
対応CPU			Core 7 360	Core 5 330	Core 5 315
CPU[注1]	動作周波数	Pコア[注2]	最大4.80GHz	最大4.60GHz	最大4.40GHz
		LPEコア[注3]	最大3.60GHz	最大3.40GHz	最大3.30GHz
	コア数		6（Pコア：2／LPEコア：4）	6（Pコア：2／LPEコア：4）	6（Pコア：2／LPEコア：4）
	スレッド数		6	6	6
	キャッシュメモリ（3次）		6MB	6MB	6MB
NPU			最大17TOPS	最大16TOPS	最大15TOPS
チップセット			CPUと一体		
メインメモリ[注4]			標準16GB（16GB×1）（DDR5-5600）[注5]／最大64GB		
メモリスロット			×1（空きメモリスロット×0）		
表示機能					
	グラフィックスアクセラレータ		Intel® Graphics（CPUに内蔵）		
	ビデオメモリ		メインメモリと共用		
	液晶ディスプレイ[注6][注7]		LEDバックライト付15.6型ワイドTFTカラー		
	解像度／発色数[注8]				
		液晶ディスプレイ表示	HD（1366×768ドット／1677万色）／ フルHD（1920×1080ドット／1677万色）		
		外部ディスプレイ表示	アナログ：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット／最大1677万色 USB Type-C：最大3840×2160ドット／最大1677万色		
	DirectX		12.1		
	OpenGL		4.6		
ストレージ[注9]			暗号化機能付フラッシュメモリ（DRAM-less SSD/PCIe NVMe）256GB[注10]		
光学ドライブ[注11]			CD/DVDドライブ[注12]		
オーディオ機能					
	オーディオコントローラー		MIPI SoundWire® 準拠		
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注13] サンプリング周波数：最大48kHz、24ビットステレオ（録音時）[注13] 同時録音再生機能		
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート		
	スピーカー		ステレオスピーカー		
	マイク		デジタルステレオマイク		
Webカメラ			有効画素数約500万画素（顔認証対応）		
キーボード			日本語アイソレーションキーボード （キーピッチ約18.4mm、キーストローク約2.5mm、106キー（テンキー付）、JIS配列準拠）		
ポインティングデバイス[注14]			フラットポイント		
通信機能					
	LAN		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注15]、Wake on LAN対応[注16]		
	無線LAN	規格[注17]	IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax/be準拠（W52/W53/W56/6L）[注18] （Wi-Fi® 準拠[注19]）（Wi-Fi CERTIFIED 7™ 準拠）（MU-MIMO対応）		
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注20]		
	Bluetoothワイヤレステクノロジー[注21]		Bluetooth v5.4準拠		

LIFEBOOK A5516/B					
対応CPU			Core 7 360	Core 5 330	Core 5 315
セキュリティ機能					
指紋センサー[注11][注22]			タッチ方式（パームレスト部）		
手のひら静脈センサー[注22]			あり		
FeliCaポート[注11]			あり		
セキュリティチップ（TPM）			TCG Ver 2.0準拠		
盗難防止用ロック取り付け穴			あり		
インターフェース					
アナログディスプレイ			アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1		
HDMI[注23]			HDMI出力×1		
USB[注24][注25]					
	Type-A	USB 3.2（Gen1）	×3（右側面×1、左側面×2）		
	Type-C[注26]	Thunderbolt™ 4[注27]	×1（左側面） （USB4（Gen3）、DisplayPort Alternate Mode対応[注28]、電源オフUSB充電機能付き）		
LAN			RJ-45×1		
オーディオ端子			×1（φ3.5mmステレオ・ミニジャック（ヘッドホン・ヘッドセット兼用））		
状態表示			LED		
電源供給方式					
ACアダプタ[注29]			入力AC100V～240V、出力DC20V（3.25A）		
内蔵バッテリパック[注30]			リチウムイオン 24Wh（標準）／リチウムイオン 72Wh（大容量）		
バッテリー駆動時間[注31]（JEITA3.0測定法[注32]）					
標準バッテリー			動画再生時：約1.7時間／アイドル時：約3.3時間		
大容量バッテリー			動画再生時：約6.6時間／アイドル時：約11.0時間		
バッテリー充電時間[注33]			約2.5時間（標準）／約3.2時間（大容量）		
消費電力[注34]					
標準値（ACアダプタ接続時）			約5.2W	約5.3W	約5.5W
最大時		本体のみ	約65W		
		ACアダプタ接続時	約74W		
電源オフ時			約0.2W以下		
外形寸法（突起部含まず）			W 368×D 250×H 23.9～31.5 mm		
質量[注35]					
光学ドライブ非搭載時			約1.85 kg（標準）／約2.00 kg（大容量）		
光学ドライブ搭載時			約1.95 kg（標準）／約2.10 kg（大容量）		
電波障害対策			VCCIクラスB		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率			製品情報ページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/）にある、製品情報の仕様をご覧ください。		
国際エネルギースタープログラム[注36]			対応[注37]		
温湿度条件			温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）		
プリインストールOS[注38]			Windows 11 Pro[注39]		
サポートOS （BIOS／ドライバー提供含む）[注38][注40][注41]			Windows 11 Pro[注39]／Windows 11 Enterprise[注39][注42]／Windows 11 Pro Education[注39]／ Windows 11 Education[注39][注42]／Windows 11 Enterprise LTSC 2024[注42][注43][注44]		
BIOS／ドライバー提供OS[注38][注40][注41]			Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024[注44][注45]		

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：・ アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・ 本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」（→P.108）をご覧ください。
注2 ：・ Performance-core。高性能CPUコアで処理能力を向上します。
・ 搭載されるCPUの仕様であり、シングルコア動作時の瞬間的な最大周波数となります。連続してこの動作周波数で動作するわけではありません。
注3 ：・ 低消費電力Efficient-core。高効率CPUコアで低消費電力に貢献します。
・ 搭載されるCPUの仕様であり、シングルコア動作時の瞬間的な最大周波数となります。連続してこの動作周波数で動作するわけではありません。
注4 ：メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。その容量は搭載されるメインメモリの容量により変動します。
注5 ：カスタムメイドの選択によって、次の容量のメモリが搭載されています。
・ 64GB（64GB×1）
・ 32GB（32GB×1）
注6 ：本パソコンを使用する場合、液晶ディスプレイを開く角度を約45～135度の間で使用してください。
注7 ：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・ 製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」から行えます。
・ 表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。
注8 ：・ グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・ 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
注9 ：容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。
注10：カスタムメイドの選択によって、次のストレージが搭載されています。
・ 暗号化機能付フラッシュメモリ（DRAM-less SSD/PCIe NVMe）512GB
・ 暗号化機能付フラッシュメモリ（SSD/PCIe NVMe）1TB
注11：カスタムメイドの選択によって搭載されています。
注12：光学ドライブの仕様は、「5.4 光学ドライブ」（→P.111）をご覧ください。
注13：使用できるサンプリングレートは、アプリによって異なります。
注14：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式／レーザー式）が添付されています。
注15：・ 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・ 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。
注16：・ 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake on LAN機能は使用できません。
・ Wake on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
- 本パソコンの有線LANインターフェース
- 本パソコンの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本パソコンが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake on LAN機能が動作しない場合があります。
・ Wake on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリーの駆動時間が短くなります。Wake on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・ 電源オフ状態からのWake on LAN機能を使用するには、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」―「Wake on LANを有効にする」をご覧ください。
・ スリープの状態からWake on LAN（Magic Packet）でのレジュームはできません。スリープの状態からUWPアプリやリモートデスクトップアプリによるレジュームは可能です。
注17：無線LANの仕様については、「5.5 無線LAN」（→P.112）をご覧ください。
注18：6LはIEEE 802.11ax、IEEE 802.11beのみ利用可能です。
注19：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
注20：IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠またはIEEE 802.11be準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
注21：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注22：カスタムメイドの選択によって、「指紋センサー」または「手のひら静脈センサー」のいずれかが搭載されます。
注23：・ HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・ 市販のテレビとの連動機能はありません。
注24：・ すべての対応機器の動作を保証するものではありません。
・ 長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
注25：外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
・ Thunderbolt™ 4は、1ポートにつき3.0A
・ USB 3.2（Gen1）Type-Aは、1ポートにつき900mA

注26：・接続したUSB対応機器の転送速度（理論値）は次のとおりです。
- Thunderbolt™ 4対応機器：最大40Gbps
- USB 3.2（Gen2）対応機器：最大10Gbps
- USB 3.2（Gen1）対応機器：最大5Gbps
- USB 2.0対応機器：最大480Mbps

・USB Power Deliveryに対応しています。
・映像出力に対応しています。

注27：・7.5W（5V/1.5A）以上を供給可能なUSB Power Delivery対応機器であれば、パソコン本体に充電できます。
パソコンを使用しながら充電する場合は、60W（20V/3A）以上を供給可能な機器が必要となります。
・すべての対応機器の動作を保証するものではありません。状況によっては消費電力が、給電速度を上回ることがあります。

注28：すべてのDisplayPortの動作を保証するものではありません。

注29：矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用DC/AC電源など）に接続されると故障する場合があります。

注30：カスタムメイドの選択により、内蔵バッテリパック（標準）を内蔵バッテリパック（大容量）に変更できます。

注31：バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。

注32：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver.3.0）」（https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/guideline/battery.html）に基づいて測定。

注33：・電源オフ時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。

注34：・当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリ容量、光学ドライブ搭載（搭載可能機種のみ）、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力は、約0.2W以下（満充電時）です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

注35：平均値のため、お使いのパソコンで質量が異なる場合があります。

注36：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

注37：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



注38：日本語64ビット版。

注39：Windows 11 2025 Update

注40：・弊社は、本製品で「サポートOS」と「BIOS／ドライバー提供OS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。また、BIOS／ドライバー提供ベンダーのサポートポリシー変更によりBIOS／ドライバーの提供に制限が発生する場合があります。
・サポートOSに関する最新の情報については、「OS関連情報」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/）をご覧ください。

注41：Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド（共通編）』の「付録2 Windowsの新規インストール」をご覧ください。
また、Windowsの新規インストールは、プリインストールOSよりも前のバージョンは使用しないでください。

注42：Microsoft社とのボリュームライセンス契約が必須となります。OSおよびBIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご検討ください。

注43：Windows 11 Enterprise LTSC 2024のサポートには延長サポートはなく、メインストリームサポートのみになり、2029年10月9日で終了となりますのでご注意ください。詳しくはMicrosoft社のWebサイト（https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/）をご覧ください。

注44：MIPI SoundWire® 準拠オーディオの動作にはOSビルド 26100.5074 以降が必要です。

注45：Microsoft社とのボリュームライセンス契約が必須となり、OSのサポートについてはMicrosoft社の有償サポート契約が必要です。
BIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご検討ください。

5.1.2 LIFEBOOK A5516/BW

LIFEBOOK A5516/BW				
対応CPU			Core 7 360	Core 5 315
CPU[注1]	動作周波数	Pコア[注2]	最大4.80GHz	最大4.40GHz
		LPEコア[注3]	最大3.60GHz	最大3.30GHz
	コア数		6（Pコア：2／LPEコア：4）	6（Pコア：2／LPEコア：4）
	スレッド数		6	6
	キャッシュメモリ（3次）		6MB	6MB
NPU			最大17TOPS	最大15TOPS
チップセット			CPUと一体	
メインメモリ[注4]			標準16GB（16GB×1）（DDR5-5600）[注5]／最大64GB	
メモリスロット			×1（空きメモリスロット ×0）	
表示機能				
	グラフィックスアクセラレータ		Intel® Graphics（CPUに内蔵）	
	ビデオメモリ		メインメモリと共用	
	液晶ディスプレイ[注6][注7]		LEDバックライト付15.6型ワイドTFTカラー	
	解像度／発色数[注8]			
		液晶ディスプレイ表示	HD（1366×768ドット／1677万色）	
		外部ディスプレイ表示	アナログ：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット／最大1677万色 USB Type-C：最大3840×2160ドット／最大1677万色	
	DirectX		12.1	
	OpenGL		4.6	
ストレージ[注9]			暗号化機能付フラッシュメモリ（DRAM-less SSD/PCIe NVMe）256GB[注10]	
光学ドライブ[注11]			CD/DVDドライブ[注12]	
オーディオ機能				
	オーディオコントローラー		MIPI SoundWire® 準拠	
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注13] サンプリング周波数：最大48kHz、24ビットステレオ（録音時）[注13] 同時録音再生機能	
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート	
	スピーカー		ステレオスピーカー	
	マイク		デジタルステレオマイク	
Webカメラ			有効画素数約500万画素（顔認証対応）	
キーボード			日本語アイソレーションキーボード （キーピッチ約18.4mm、キーストローク約2.5mm、106キー（テンキー付）、JIS配列準拠）	
ポインティングデバイス[注14]			フラットポイント	
通信機能				
	LAN		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注15]、Wake on LAN対応[注16]	
	無線LAN	規格[注17]	IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax/be準拠（W52/W53/W56/6L）[注18] （Wi-Fi® 準拠[注19]）（Wi-Fi CERTIFIED 7™ 準拠）（MU-MIMO対応）	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注20]	
	Bluetoothワイヤレステクノロジー[注21]		Bluetooth v5.4準拠	
セキュリティ機能				
	セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0準拠	
	盗難防止用ロック取り付け穴		あり	

LIFEBOOK A5516/BW				
対応CPU			Core 7 360	Core 5 315
インターフェース				
	アナログディスプレイ		アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
	HDMI[注22]		HDMI出力×1	
	USB[注23][注24]			
	Type-A	USB 3.2（Gen1）	×3（右側面×1、左側面×2）	
	Type-C[注25]	Thunderbolt™ 4[注26]	×1（左側面） （USB4（Gen3）、DisplayPort Alternate Mode対応[注27]、電源オフUSB充電機能付き）	
	LAN		RJ-45×1	
	オーディオ端子		×1（φ3.5mmステレオ・ミニジャック（ヘッドホン・ヘッドセット兼用））	
	状態表示		LED	
電源供給方式				
	ACアダプタ[注28]		入力AC100V～240V、出力DC20V（3.25A）	
	内蔵バッテリパック[注29]		リチウムイオン 24Wh（標準）／リチウムイオン 72Wh（大容量）	
バッテリー駆動時間[注30]（JEITA3.0測定法[注31]）				
	標準バッテリー		動画再生時：約1.7時間／アイドル時：約3.3時間	
	大容量バッテリー		動画再生時：約6.6時間／アイドル時：約11.0時間	
バッテリー充電時間[注32]			約2.5時間（標準）／約3.2時間（大容量）	
消費電力[注33]				
	標準値（ACアダプタ接続時）		約5.2W	約5.5W
	最大時	本体のみ	約65W	
		ACアダプタ接続時	約74W	
	電源オフ時		約0.2W以下	
外形寸法（突起部含まず）			W 368×D 250×H 23.9～31.5 mm	
質量[注34]				
	光学ドライブ非搭載時		約1.85 kg（標準）／約2.00 kg（大容量）	
	光学ドライブ搭載時		約1.95 kg（標準）／約2.10 kg（大容量）	
電波障害対策			VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率			製品情報ページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/）にある、製品情報の仕様をご覧ください。	
国際エネルギースタープログラム[注35]			対応[注36]	
温湿度条件			温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プリインストールOS[注37]			Windows 11 Pro[注38]	
サポートOS （BIOS／ドライバー提供含む）[注37][注39][注40]			Windows 11 Pro[注38]／Windows 11 Enterprise[注38][注41]／Windows 11 Pro Education[注38]／ Windows 11 Education[注38][注41]／Windows 11 Enterprise LTSC 2024[注41][注42][注43]	
BIOS／ドライバー提供OS[注37][注39][注40]			Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024[注43][注44]	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：・ アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・ 本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」（→P.108）をご覧ください。
注2 ：・ Performance-core。高性能CPUコアで処理能力を向上します。
・ 搭載されるCPUの仕様であり、シングルコア動作時の瞬間的な最大周波数となります。連続してこの動作周波数で動作するわけではありません。
注3 ：・ 低消費電力Efficient-core。高効率CPUコアで低消費電力に貢献します。
・ 搭載されるCPUの仕様であり、シングルコア動作時の瞬間的な最大周波数となります。連続してこの動作周波数で動作するわけではありません。
注4 ：メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。その容量は搭載されるメインメモリの容量により変動します。
注5 ：カスタムメイドの選択によって、次の容量のメモリが搭載されています。
・ 32GB（32GB×1）
注6 ：本パソコンを使用する場合、液晶ディスプレイを開く角度を約45～135度の間で使用してください。
注7 ：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・ 製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」から行えます。
・ 表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。
注8 ：・ グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・ 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
注9 ：容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。
注10：カスタムメイドの選択によって、次のストレージが搭載されています。
・ 暗号化機能付フラッシュメモリ（DRAM-less SSD/PCIe NVMe）512GB
・ 暗号化機能付フラッシュメモリ（SSD/PCIe NVMe）1TB
注11：カスタムメイドの選択によって搭載されています。
注12：光学ドライブの仕様は、「5.4 光学ドライブ」（→P.111）をご覧ください。
注13：使用できるサンプリングレートは、アプリによって異なります。
注14：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式／レーザー式）が添付されています。
注15：・ 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・ 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。
注16：・ 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake on LAN機能は使用できません。
・ Wake on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
- 本パソコンの有線LANインターフェース
- 本パソコンの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本パソコンが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake on LAN機能が動作しない場合があります。
・ Wake on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリーの駆動時間が短くなります。Wake on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・ 電源オフ状態からのWake on LAN機能を使用するには、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」―「Wake on LANを有効にする」をご覧ください。
・ スリープの状態からWake on LAN（Magic Packet）でのレジュームはできません。スリープの状態からUWPアプリやリモートデスクトップアプリによるレジュームは可能です。
注17：無線LANの仕様については、「5.5 無線LAN」（→P.112）をご覧ください。
注18：6LはIEEE 802.11ax、IEEE 802.11beのみ利用可能です。
注19：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
注20：IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠またはIEEE 802.11be準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
注21：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注22：・ HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・ 市販のテレビとの連動機能はありません。
注23：・ すべての対応機器の動作を保証するものではありません。
・ 長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
注24：外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
・ Thunderbolt™ 4は、1ポートにつき3.0A
・ USB 3.2（Gen1）Type-Aは、1ポートにつき900mA

注25：・ 接続したUSB対応機器の転送速度（理論値）は次のとおりです。
- Thunderbolt™ 4対応機器：最大40Gbps
- USB 3.2（Gen2）対応機器：最大10Gbps
- USB 3.2（Gen1）対応機器：最大5Gbps
- USB 2.0対応機器：最大480Mbps

・ USB Power Deliveryに対応しています。
・ 映像出力に対応しています。

注26：・ 7.5W（5V/1.5A）以上を供給可能なUSB Power Delivery対応機器であれば、パソコン本体に充電できます。
パソコンを使用しながら充電する場合は、60W（20V/3A）以上を供給可能な機器が必要となります。
・ すべての対応機器の動作を保証するものではありません。状況によっては消費電力が、給電速度を上回ることがあります。

注27：すべてのDisplayPortの動作を保証するものではありません。

注28：矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用DC/AC電源など）に接続されると故障する場合があります。

注29：カスタムメイドの選択により、内蔵バッテリパック（標準）を内蔵バッテリパック（大容量）に変更できます。

注30：バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。

注31：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver.3.0）」（https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/guideline/battery.html）に基づいて測定。

注32：・ 電源オフ時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・ バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。

注33：・ 当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリ容量、光学ドライブ搭載（搭載可能機種のみ）、LCD輝度最小）。
・ 電源オフ時の消費電力は、約0.2W以下（満充電時）です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

注34：平均値のため、お使いのパソコンで質量が異なる場合があります。

注35：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

注36：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



注37：日本語64ビット版。

注38：Windows 11 2025 Update

注39：・ 弊社は、本製品で「サポートOS」と「BIOS／ドライバー提供OS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。また、BIOS／ドライバー提供ベンダーのサポートポリシー変更によりBIOS／ドライバーの提供に制限が発生する場合があります。
・ サポートOSに関する最新の情報については、「OS関連情報」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/）をご覧ください。

注40：Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド（共通編）』の「付録2 Windowsの新規インストール」をご覧ください。
また、Windowsの新規インストールは、プリインストールOSよりも前のバージョンは使用しないでください。

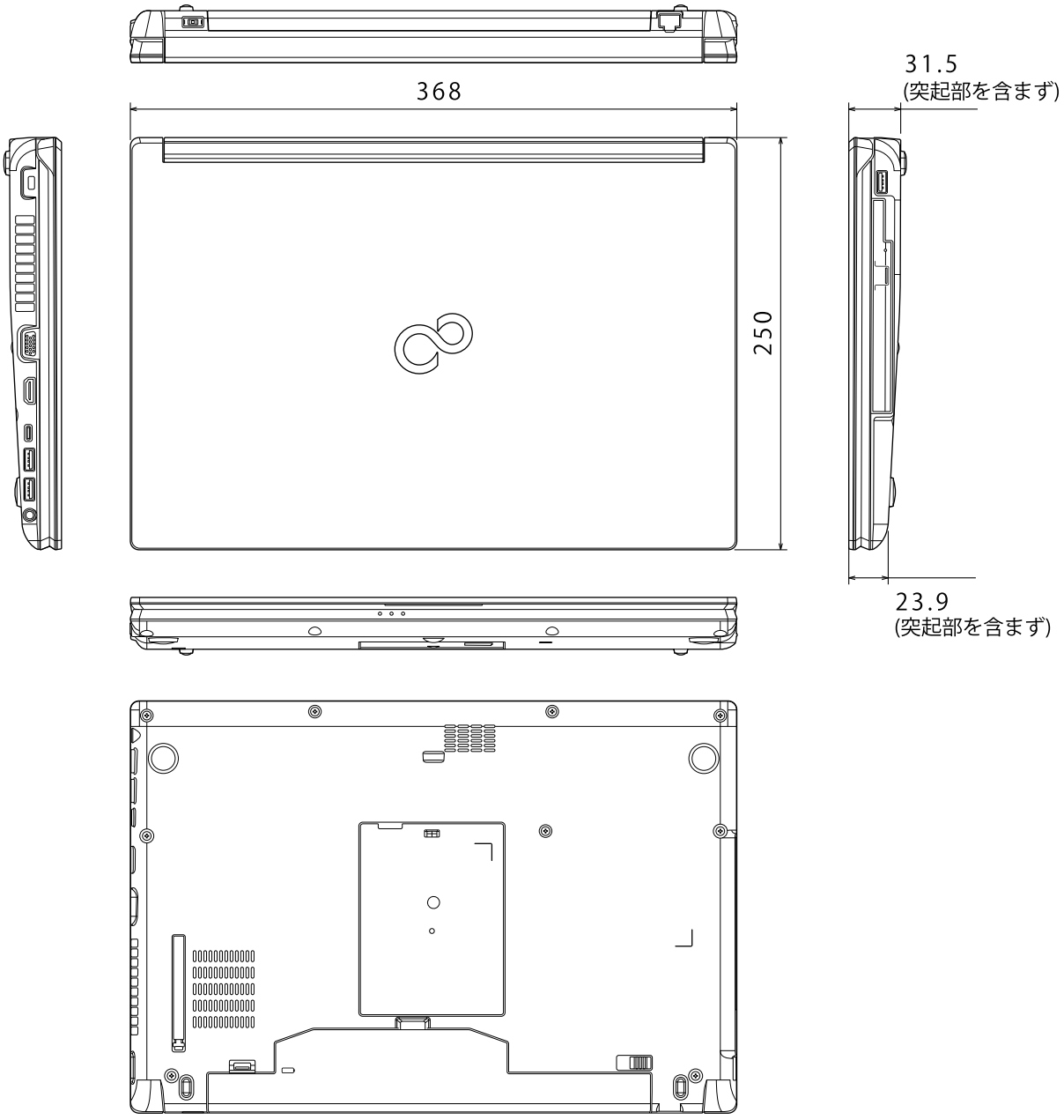
注41：Microsoft社とのボリュームライセンス契約が必須となります。OSおよびBIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご検討ください。

注42：Windows 11 Enterprise LTSC 2024のサポートには延長サポートはなく、メインストリームサポートのみになり、2029年10月9日で終了となりますのでご注意ください。詳しくはMicrosoft社のWebサイト（https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/）をご覧ください。

注43：MIPI SoundWire® 準拠オーディオの動作にはOSビルド 26100.5074 以降が必要です。

注44：Microsoft社とのボリュームライセンス契約が必須となり、OSのサポートについてはMicrosoft社の有償サポート契約が必要です。
BIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご検討ください。

5.1.3 六面図



5.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル®ターボ ・ ブースト ・ マックス ・ テクノロジー 3.0

最速のコアの動作周波数を大幅に引き上げることで柔軟性を高め、プロセッサーの能力を最大限に引き出す機能です。

POINT

- OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル®ターボ ・ ブースト ・ テクノロジー 2.0

従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® バーチャライゼーション ・ テクノロジー

本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。
『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ 拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー （EIST）

実行中のアプリのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

POINT

- この機能により本パソコンの性能が低下することがあります。

■ エグゼキュート ・ ディスエーブル ・ ビット

Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファー・オーバーフロー脆弱性）を防ぎます。
データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[アプリ名称]は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

5.3 ディスプレイ

5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

パソコン本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイでの「シングル表示」、複数のディスプレイを使った「拡張デスクトップ表示」にしたときに、本製品が出力可能な解像度です。
「拡張デスクトップ表示」にする場合は各ディスプレイごとに解像度を設定できます。

POINT

- お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
  発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ

お使いのパソコン本体の液晶ディスプレイ欄をご覧ください。

解像度	フルHD	HD
1024×768	○	○
1280×720	○	○
1280×800	○	−
1280×1024	○	−
1360×768	○	○
1366×768	○	○
1440×900	○	−
1600×900	○	−
1680×1050	○	−
1920×1080	○	−

■ 外部ディスプレイ※

※ アナログ接続／HDMI接続／USB Type-C接続

解像度	リフレッシュレート（Hz）
1024×768	85注1／75注1／70注1／60
1280×720	60
1280×800	60
1280×1024	85注1／75注1／60
1360×768	60
1366×768	60
1440×900	60
1600×900	60
1600×1200	60
1680×1050	60
1920×1080	60
1920×1200	60
1920×1440注2	60
2560×1440注2	60
2560×1600注2	60
3840×2160注2	60
4096×2160注3	60

注1：アナログディスプレイコネクタを使用する場合に設定可能
注2：HDMI出力端子／USB Type-Cコネクタを使用する場合に表示可能
注3：HDMI出力端子を使用する場合に表示可能

5.3.2　クローン表示の解像度

「クローン表示」にする場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイが対応している解像度により異なります。
パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイが対応しているそれぞれの最大解像度のうち、小さい方の解像度が「クローン表示」で設定できる最大解像度になります。

POINT

- お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
  発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ＋外部ディスプレイ※

※ アナログ接続／HDMI接続／USB Type-C接続
お使いのパソコン本体の液晶ディスプレイ欄をご覧ください。

解像度	フルHD	HD
1024×768	○	○
1280×720	○	○
1280×800	○	－
1280×1024	○	－
1360×768	○	○
1366×768	○	○
1440×900	○	－
1600×900	○	－
1680×1050	○	－
1920×1080	○	－

5.4 光学ドライブ

対 象 光学ドライブ搭載機種

各数値は仕様上の最大値です。使用するディスクや状況によって異なる場合があります。
お使いの光学ドライブの欄をご覧ください。

ディスク	スーパーマルチドライブ[注]		DVD-ROM ドライブ	
	読込速度	書込速度	読込速度	書込速度
CD-ROM	24x	−	24x	−
CD-R	24x	24x	24x	−
CD-RW	24x	10x	24x	−
DVD-ROM	8x	−	8x	−
DVD-R（4.7GB）	8x	8x	8x	−
DVD-R DL（8.5GB）	8x	6x	8x	−
DVD-RW	8x	6x	8x	−
DVD+R（4.7GB）	8x	8x	8x	−
DVD+R DL（8.5GB）	8x	6x	8x	−
DVD+RW（4.7GB）	8x	8x	8x	−
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB）	5x	5x	5x	−

注 ： バッファーアンダーランエラー防止機能付

5.5 無線LAN

本パソコンに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Wi-Fi 7 BE213 160 MHz

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠、IEEE 802.11be準拠（Wi-Fi®準拠注1、Wi-Fi CERTIFIED 7™ 準拠）	
転送レート注2	IEEE 802.11b準拠	最大11Mbps
	IEEE 802.11a/g準拠	最大54Mbps
	IEEE 802.11n準拠	最大300Mbps（送信2× 受信2　接続対応）注3
	IEEE 802.11ac準拠	最大1733Mbps（送信2 × 受信2　接続対応）注3
	IEEE 802.11ax準拠	最大574Mbps（2.4GHz帯）、最大2402Mbps（5GHz帯／6GHz帯）（送信2× 受信2　接続対応）注3
	IEEE 802.11be準拠	最大688Mbps（2.4GHz帯）、最大2882Mbps（5GHz帯／6GHz帯）（送信2× 受信2　接続対応）注3
セキュリティ注4	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEPキー）：64／128ビット）注5 WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA3-パーソナル（WPA3-SAE）（AES） WPA3-エンタープライズ 192ビット（WPA3）（EAP-TLS）（AES） IEEE 802.1X（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）	
使用周波数（中心周波数）	2,412～2,472MHz／5,180～5,320MHz／5,500～5,720MHz／5,955～6,415MHz	
チャンネル	2.4GHz帯（IEEE 802.11b/g/n/ax/be準拠）	1～13ch
	5GHz帯（IEEE 802.11a/n/ac/ax/be準拠）	W52（36/40/44/48ch） W53（52/56/60/64ch） W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）
	6GHz帯（IEEE 802.11ax/be準拠）	6L（1/5/9/13/17/21/25/29/33/37/41/45/49/53/57/61/65/69/73/77/81/85/89/93ch）

注1 ： Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
注2 ： ご利用の環境によって自動で切り替わります。
注3 ： 次の帯域幅に対応しています。
- 20MHz帯域幅（HT20/VHT20/HE20/EHT20）
- 40MHz帯域幅（HT40/VHT40/HE40/EHT40）
- 80MHz帯域幅（VHT80/HE80/EHT80）
- 160MHz帯域幅（VHT160/HE160/EHT160）

上記の帯域幅を利用するには、無線LANアクセスポイントも各帯域幅に対応している必要があります。
無線LANアクセスポイントの設定において各帯域幅の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに各帯域幅の機能を無効にしてください。

注4 ： IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11ax、IEEE 802.11beで接続するためには、セキュリティの暗号化をAESに設定する必要があります。
注5 ： WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。

□5GHz帯のチャンネルについて

5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52：36（5,180MHz）/40（5,200MHz）/44（5,220MHz）/48（5,240MHz）
- W53：52（5,260MHz）/56（5,280MHz）/60（5,300MHz）/64（5,320MHz）
- W56：100（5,500MHz）/104（5,520MHz）/108（5,540MHz）/112（5,560MHz）/116（5,580MHz）/120（5,600MHz）/124（5,620MHz）/128（5,640MHz）/132（5,660MHz）/136（5,680MHz）/140（5,700MHz）/144（5,720MHz）

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

LIFEBOOK
A5516/B
A5516/BW

製品ガイド（機種別編）
B5FL-4481-01 Z0-01

発 行 日　2026年9月
発行責任　富士通株式会社

〒211-8588　神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。